



海と日本PROJECT むなかたSDGs教室

事業報告書 1



2025年3月31日

海を守ろうむなかた実行委員会

企画趣旨

世界文化遺産「神宿る島」沖ノ島は、島全体が信仰の対象であり、航海の安全を祈って、国家的な祭祀が営まれた歴史を持ちます。しかし近年、豊かな漁場が広がる島の周辺海域に膨大な量のごみが流れ込み、漁業や生態系を脅かす要因になっています。海洋ごみの問題は、地球規模の課題であると同時に、それぞれの地域で住民主体の息の長い取り組みが欠かせません。そのためには、次世代を担う子どもたちがこの問題を「自分ごと」として捉え、解決に向けた取り組みを考える環境が必要です。

海を守ろうむなかた実行委員会は、“世界遺産の海で考える”をキーワードに、地球規模の環境問題について宗像の地で考え、発信することを活動の目的とし、青少年の各年代に教育的なプログラムを導入しています。このプログラムで育む子どもたちの海への思いが地域に広がり、地域の「自分ごと」となれば、海はもっと美しくなると信じます。



宗像大社の鳥居、玄海灘の海、朝日の3つを表現。朝日の輝きが海面から鳥居へと筋を描く「光の参道」から、明るく楽しい教室という思いをシンプルに親しみやすいロゴにまとめています。

—海の豊かさを知る体験イベント—
「むなかたSDGs教室」

実施概要

- イベント名 むなかたSDGs教室
- 日時 2024年8月18日(日)9:00-17:00
- 会場 福岡県立少年自然の家「玄海の家」(宗像市神湊1276番地)
- 主催 海を守ろうむなかた実行委員会(宗像市、読売新聞西部本社、福岡県立少年自然の家「玄海の家」)
- 協力 宗像漁業協同組合、(一社)シーズンズ、宗像市教育委員会、むなかた大学のまち協議会、
(一社)アースプロジェクト福岡、(株)ミエタ
- 参加者 宗像市周辺地域の小学生4～6年生46名(応募72名)、学生ボランティア30名(応募40名)
- 実施内容 ①海の恵み体験 : 魚さばき体験と調理
 ②ビーチクリーン : マイクロプラごみ回収とアクセサリー作り
 ③世界遺産セミナー : 海の世界遺産「沖ノ島」について学ぶ
- 参加方法 ◎ツール : web応募フォームにて必要事項を記入。応募多数のため抽選
 ◎期間 : 7月1日(月)～31日(水)
 ◎告知 : チラシ20,000部配布(朝刊、小学校等)、WEBサイト掲出、宗像市広報

講師 一般社団法人シーソング、宗像漁業協同組合 神湊支所

内容 生きたアジを生け簀から捕まえて締めるところから、内臓の処理、竹串に刺して焼き上げるところまで体験。最初は恐る恐る触れていた子どもたちもすぐに慣れ、見守り役の学生ボランティアと一緒に作業を進めました。ぷっくり肉厚なアジが焼き上がると、漁協のみなさんが用意してくれたイカの煮物、あおさの味噌汁もテーブルに並べて美味しくいただきました。子どもたちは「自分でさばいたから、いつもより美味しい」とすっかり平らげました。



ビーチクリーンとアクセサリ作り

講師

一般社団法人シーソonz

内容

「マイクロプラスチックごみは海岸にたくさんある」とシーソonz代表の権田さんから説明を受けて、実際に海岸に出てみると「あれも、これも」とマイクロプラスチックごみだらけ。ザルを使って砂を落とすと、外国語表記のごみが多くあり、海外からの漂着ごみが多いことが分かります。拾ってきた色合いもさまざまなマイクロプラスチックごみを使い、子どもたちはオリジナルキーホルダー作りにも取り組み、個性溢れる作品が完成しました。

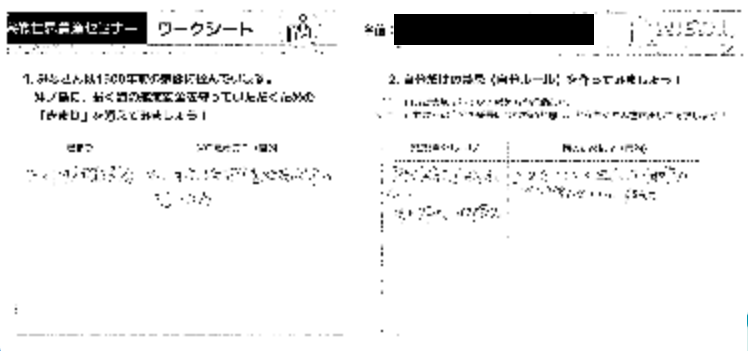
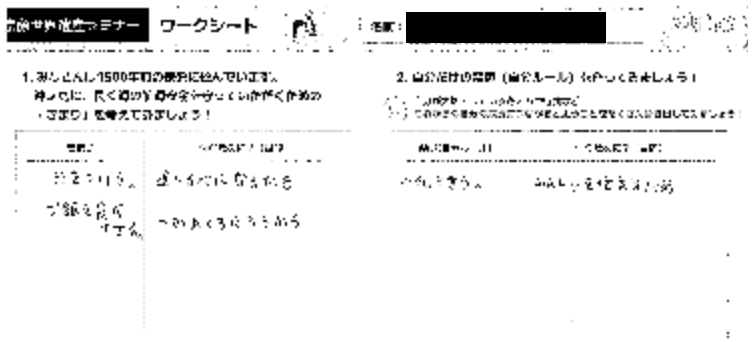


講師

宗像市 世界遺産課 岡 崇 氏、株式会社ミエタ 島川 竜也 氏

内容

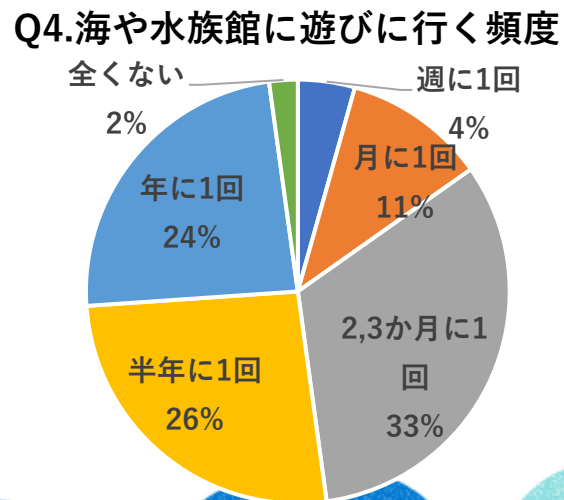
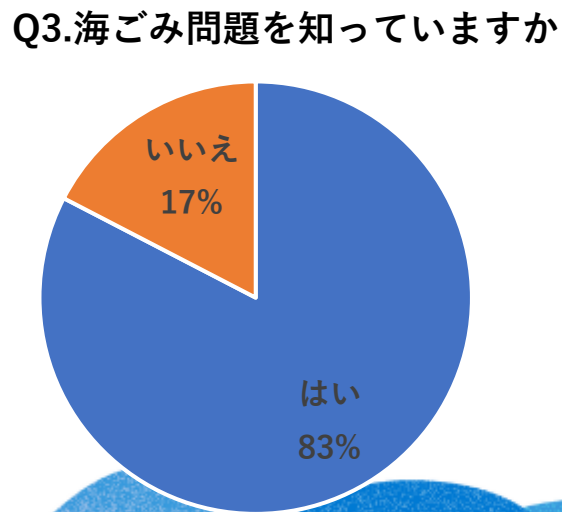
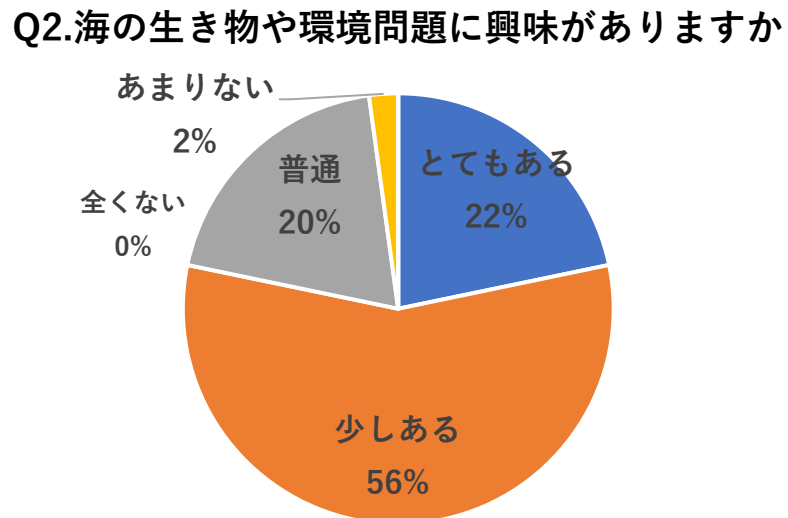
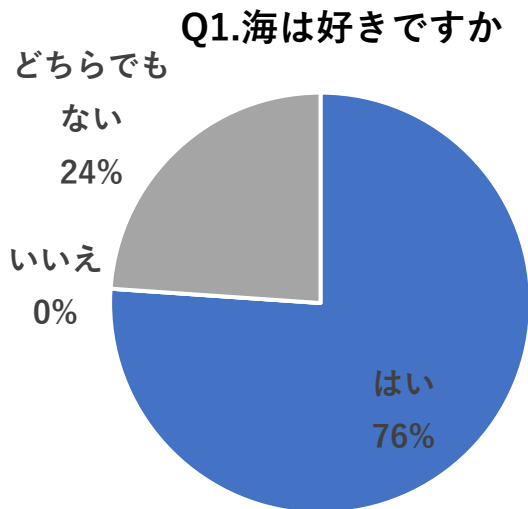
このセミナーは、講義形式をとらずに、子どもたちが主体的に考え、発言し、学びを深める構成。講師陣は、身近に世界遺産があることや、歴史の楽しさ、課題への気づきを参加者に投げかけます。盛んな交易が宗像に貴重な宝物を残したこと、海洋航海安全の役割を沖ノ島が担ったことなどをグループワークを通じて深めていきました。子どもたちは、1,500年続く歴史を目の当たりにして驚きをみせていました。



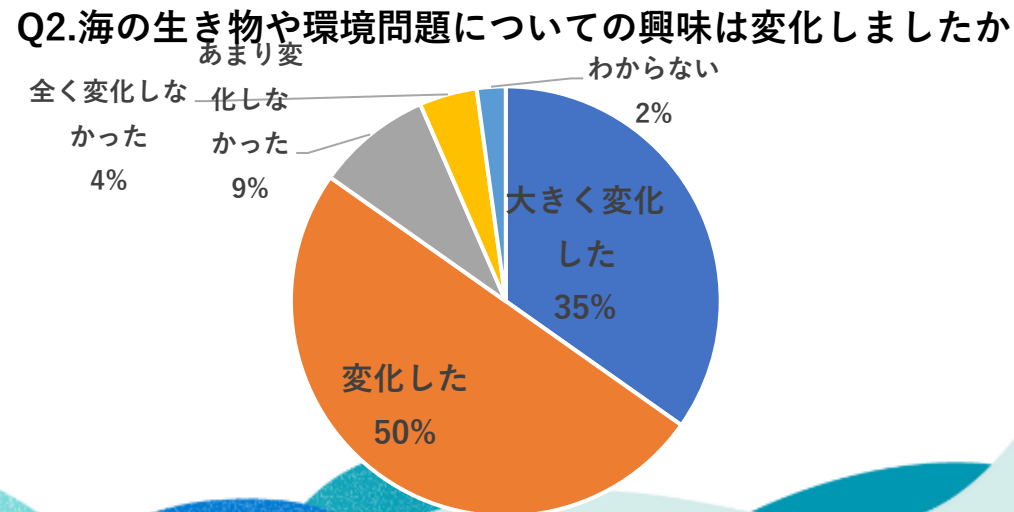
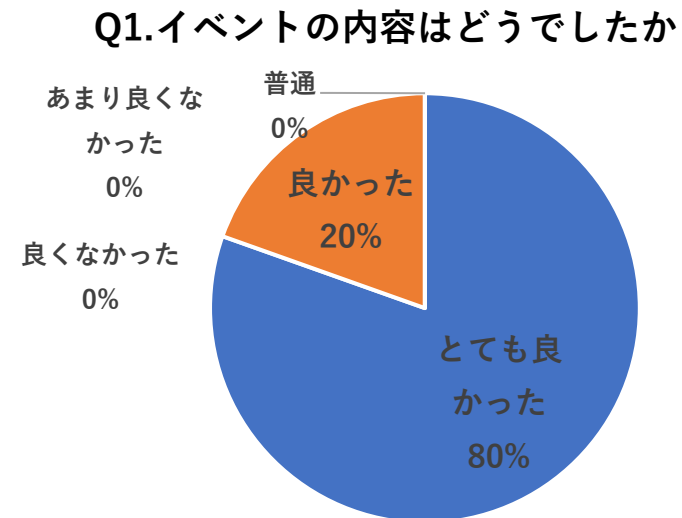
アンケート（小学生）

イベント内容は100%が高い満足度で、海への興味関心度も85%以上が前向きに変化しました。

< イベント前（小学生） >（回答者数46人）



< イベント後（小学生） >（回答者数46人）

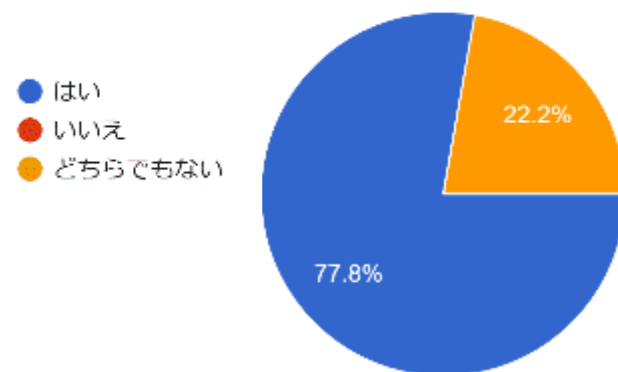


アンケート（学生ボランティア）

< イベント前（学生ボランティア） >（回答者数27人）

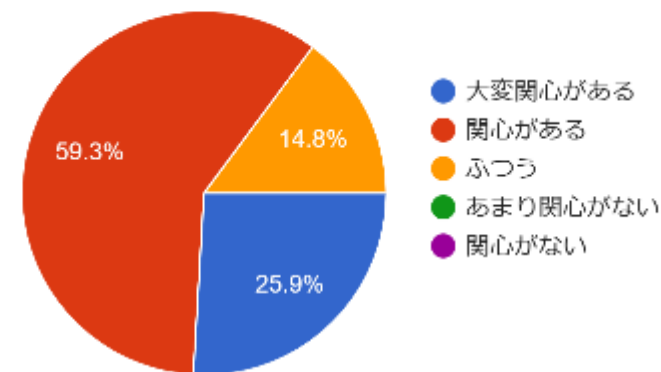
Q1.あなたは海が好きですか？

27件の回答



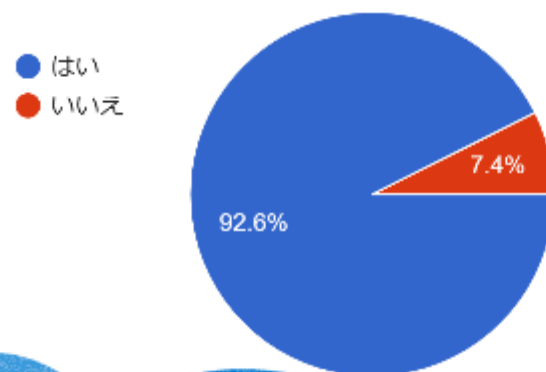
Q3.あなたは海の環境問題などについてどのくらい関心がありますか？

27件の回答



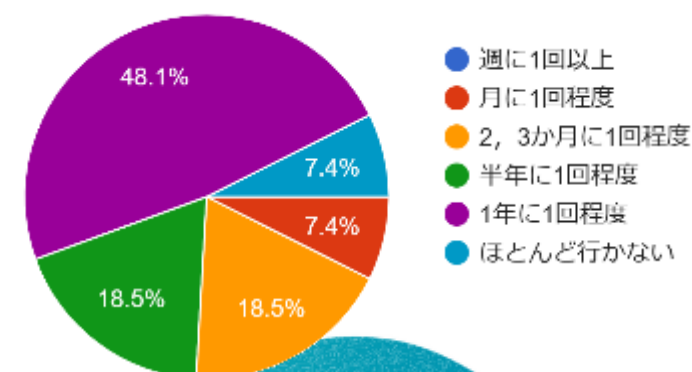
Q4.あなたは「マイクロプラスチック問題」を知っていますか？

27件の回答



Q8.1年に何回ぐらい海や海に関する施設（水族館など）に遊びに行きますか？

27件の回答

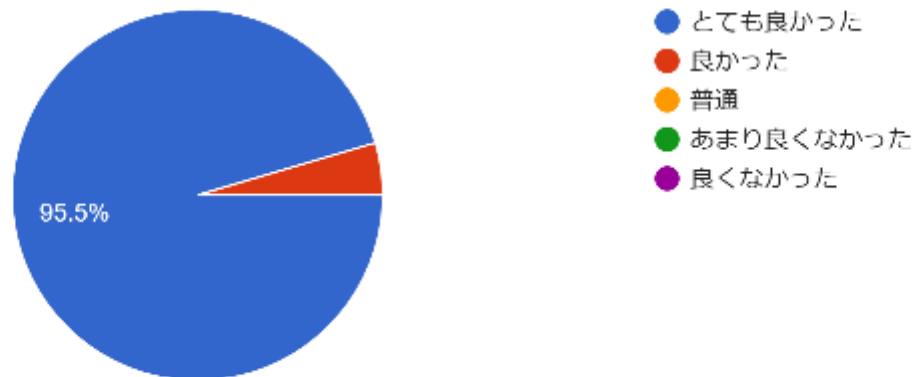


アンケート（学生ボランティア）

<イベント後（学生ボランティア）>（回答者数22人）

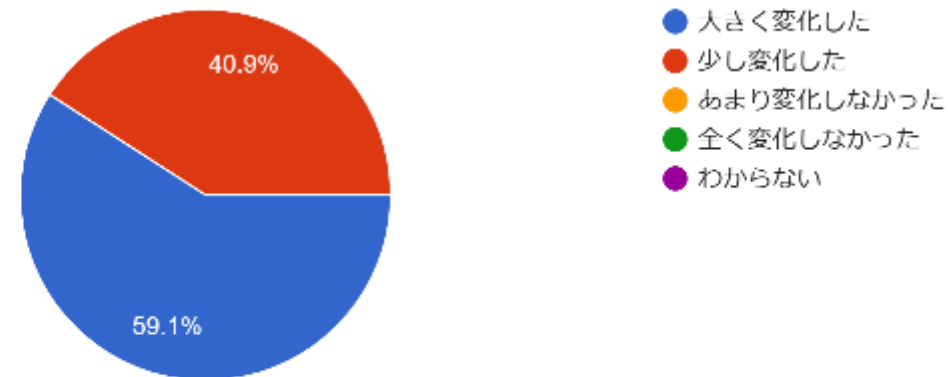
Q1. イベントの内容はどうでしたか？

22 件の回答



Q2. イベントに参加して、海の環境問題などへの関心度は変化しましたか？

22 件の回答



〈自由記述抜粋〉

- 小学生の視点に合わせた体験が多く、若返ったような気分でした。魚捌き体験では、子供達が上手く捌けていて驚きでした。味も美味しく、命の尊さを実感しながら完食することができました。マイクロプラスチックが無数に落ちていて、海ゴミ問題は深刻であると感じました。キーホルダー作りなどで有効活用しながらゴミの問題を考えられるのは良い取り組みだと感じました。
- 小学生は、とても仲良くしてくれて、最初は緊張していた子が、帰る時にはまたねと言ってくれたのでボランティアに参加して良かったと思いました。また来年があれば参加したいと思っています。本当にありがとうございました。
- ボランティアとして小学生のサポートをしたというより一緒に楽しんで話して成長できたという印象でした。すごく充実した時間だったのでまた参加しようと思いました。また、スタッフの方が小学生や自分たちのために一生懸命教えたり準備、片付けをしている姿を間近で見ることができて小学生にとってより一層いい経験になったと思いました。
- このイベントで初めてのチャレンジが多かったので、自身の成長にも繋がったと思います。子どもが小さい頃から、環境や地元の歴史などに触れられるこのような機会があるのは、生活を見直すきっかけにもなると思いました。楽しそうに話してくれたことから、小学生やボランティアの学生にとっても、今日の一日の出来事は思い出深いものになったのではないかと実感しています。今日の経験を通して、環境や歴史についてもさらに興味を持つことができました。関心を持つことで海の生き物のためにも配慮をできるようになり、地元のことを深く知り、地元愛も大きくなるのではないかと感じました。

イベント告知とメディア掲出

A4チラシ

発行部数：20,000部

| | |
|--------------|--------|
| 宗像市内小学校 | 4,000部 |
| 宗像市役所内 | 1,000部 |
| 少年自然の家「玄海の家」 | 500部 |
| 福岡市科学館 | 3,000部 |
| 読売新聞朝刊折込 | 7,100部 |
| 読売KODOMO新聞折込 | 3,000部 |
| 読売新聞西部本社1階 | 1,400部 |

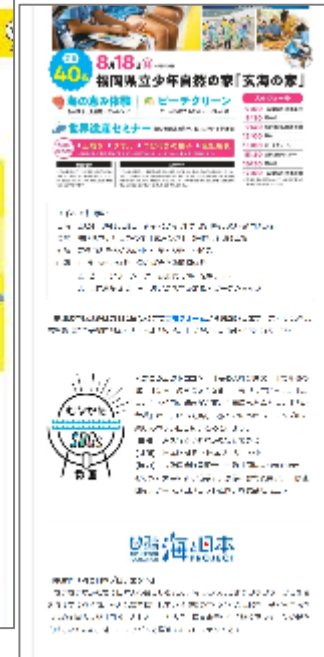
宗像市リリース

西日本新聞社
朝日新聞社西部本社
毎日新聞社
読売新聞社
NHK福岡放送局
九州朝日放送
RKB毎日放送
テレビ西日本
福岡放送(FBS)
ラブエフエム国際放送
TVQ

ほか

公式サイト

「ささっとー」
(読売新聞ニュースサイト)
・7月1日掲出開始



宗像市SNS



新聞

読売新聞地域版 7月4日付朝刊

7月26日付朝刊

WEBメディア

・7月8日掲出開始



・ 7月27日(土)9:15~9:25



・7月2日掲出開始



イベント報告とメディア掲出

※動画やその他成果物は別紙報告書に記載

公式サイト

「ささっとー」
(読売新聞ニュースサイト)
・8月18日掲出開始



新聞



読売新聞地域版 8月20日付朝刊

WEBメディア

むなかたボランティアシステム
(宗像市ボランティアセンターサイト)
・8月27日掲出開始



海と日本PROJECT inふくおか
・8月27日掲出開始



参加者配布

Tシャツ

イベントに参加した小学生及び高校生・大学生のボランティアには、ロゴマークをデザインしたオリジナルTシャツを配布し、イベント中に着用してもらいました。終了後には、記念品として各自持ち帰り。

フロント・バックにそれぞれ海と日本プロジェクト・むなかたSDGs教室のロゴマークをデザイン

<小学生用>



<学生ボランティア・スタッフ用>



参加者配布

修了証

イベントに参加した小学生及び高校生・大学生のボランティアには、それぞれ修了証書・ボランティア活動証明書を発行しました。

<修了証書（小学生に配布）>



<活動証明書（学生ボランティアに配布）>



<修了証（学生記者に配布）>



— イベントの様子が学生がレポート — 「ささっと—学生記者」

実施概要

- **企画名** ささっとー学生記者
 - **日時**
 - ①記者講座 2024年8月7日(日)9:00-17:00
 - ②イベント取材 2024年8月18日(日)9:00-17:00
 - ③原稿執筆・校正 2024年9月～10月
 - **場所** 読売新聞西部本社（福岡市中央区赤坂1-16-5）、福岡県立少年自然の家「玄海の家」（宗像市神湊1276番地）
 - **主催** 海を守ろうむなかた実行委員会
 - **協力** (一社)アースプロジェクト福岡
 - **参加者** 福岡市内大学生1名
※応募4名のうち3名を採用。記者講座当日1名が欠席し、またイベント取材日も1名の欠席があったため通しての参加は1名
 - **実施内容**
 - ①参加者募集 : アースプロジェクト福岡LINEグループを通じ登録学生に募集案内
 - ②記者講座 : 記者およびカメラマンによる取材と執筆の指導
 - ③イベント取材 : 記者およびカメラマンの同伴による取材現場指導
 - ④原稿執筆・校正 : 原稿執筆と校正の指導やり取り
 - ⑤WEB公開 : ニュースサイト「ささっとー」への記事公開
アースプロジェクト福岡LINEグループへの配信

講師

読売新聞西部本社 記者 高橋 淳夫 氏、カメラマン 大野 博昭 氏

内容

8月7日読売新聞西部本社にて記者講座を開催しました。大学生2名が出席（1名欠席）し、午前の取材記事執筆講座、午後の写真撮影講座を受講。取材の心得や、記事の基本構造、撮影技法などを1日を通して学び、8月18日の「むなかたSDGs教室」取材に向けて準備をしました。

[illegible]

【ワーク】

「むなかたSDGs教室」とは何か、概要や全体像を示す「クリップ」を作りましょう!!

【目的】

- ・取材と原稿作成の練習
- ・取材対象の基礎知識を得る

第22ページ

【取材時の質問について】
 マ自分の名前は今乗ります(礼儀)
 マ答えてくれる方のお名前も聞きましょう
 (情報の信頼性の確認)
 マ重要な言葉はメモしましょう(執筆の準備)

【質問作りのアドバイス】
 マ興味がある部分を、さらに広げる
 ※紙に興味を付けた、質問は自然に湧いてきます
 マ知りた部分をかじめる整理しておく
 ※事前に、質問を準備しておくとうり取りが円滑に済みます
 マ1冊を扱う(おもしろい)
 ※この質問をされた時、自分ならどう答えるか、と考えると、質問の意図が伝わりやすいかどうかかわります

取材12、23



講師 読売新聞西部本社 記者 岡村 耕正 氏、カメラマン 大野 博昭 氏

内容 8月18日「むなかたSDGs教室」のイベントの様子を学生記者が取材、記者とカメラマンが同伴し、講師や参加者へのインタビューなどサポートしました。参加した学生記者は、ひと夏の経験で成長していく子どもたちの姿を目の当たりにするとともに、環境問題に奮闘し、地元愛を語る大人の真剣さにも感銘を受けていました。



WEB公開・配信

公式サイト

「ささっとー」

(読売新聞ニュースサイト)

・11月1日掲出開始



【前編】

<https://sasatto.jp/pro/umimunakata/entry-7064.html>

【中編】

<https://sasatto.jp/pro/umimunakata/entry-7086.html>

【後編】

<https://sasatto.jp/pro/umimunakata/entry-7087.html>



LINE配信

アースプロジェクト福岡

LINEグループ配信

・11月12日配信（登録者2,800人）



その他

中村学園大学ホームページ

・11月12日掲出開始



その他イベント



宗像市が主催し、子どもの健やかな成長が保証されるまちづくりを目指して、市内在住の小・中学生を対象に大学や企業の職員が講師となって、子どもたちの意欲に基づくテーマについて講座や体験活動を提供。24年度は大学、企業、団体の参画により34コースが開かれ505人が参加しました。本事業は、取り組みが評価され、文部科学省と経済産業省が共同で開催した第13回キャリア教育推進連携表彰において、最優秀賞を受賞しました。

概要

- 企画名 むなかた子ども大学—新聞記者コース／海の課題取材しよう—
- 日時 2024年12月7日(日)9:00-15:00
- 場所 福岡県立少年自然の家「玄海の家」(宗像市神湊1276番地)
- 参加者 小学生5名、中学生1名、大学生ボランティア2名
- 内容
 - 1 限目(40分) : 『新聞記者の仕事って何?』
 - 2 限目(40分) : 『マイクロプラスチックごみを知ろう・拾おう』
 - 昼食休憩—
 - 3 限目(40分) : 『A3用紙を使ったオリジナル新聞づくり—執筆編—』
 - 4 限目(40分) : 『A3用紙を使ったオリジナル新聞づくり—編集編—』



成果物とメディア掲出

オリジナル新聞



WEBメディア

「ささっとー」
(読売新聞ニュースサイト)
・12月10日掲出開始



動画

宗像市 地域教育連携室
Youtubeチャンネル
・1月23日アップ



<https://youtu.be/ToJWUGuK7Bg?si=4mMXZGXw10OSBD3d>



海と日本PROJECT むなかつSDGs教室

事業報告書 2



—海の問題や地域の課題を自ら発掘—
「むなかたSDGs探究」

企画趣旨

現代社会は、変化が激しく予測が困難であるとされ、これからの未来を生きる若者たちは、予測が難しい問題に向き合い、課題を解決していく力が必要といわれます。文部科学省は、問題解決能力を育む教育方針を掲げ、PBL（Project Based Learning＝課題解決型学習）に重点を置くことを新学習指導要領で示しています。

宗像市の約60キロ沖には世界文化遺産・沖ノ島があります。ここ一体の海洋環境は、地域社会の生活と経済活動において重要な役割を果たしています。しかし、漁業資源の減少や海洋ごみの増加、観光と環境保全のバランスの必要性など、多くの課題に直面しています。「むなかたSDGs探究」は、次世代を担う中学生がこれらの課題を学び、具体的な解決策を模索することを目的とし、宗像の中学校でプログラムを実施しました。生徒たちは海の問題や地域課題について学び、どのような取り組みで自分たちの地域をよりよくしていくことができるのかを考え、実現を目指しました。

実施概要

- プログラム名 むなかたSDGs探究
- 期間 2024年9月～2025年3月（授業枠数計36コマ、その他販売会イベント2回、放課後のゼミ実施）
- 参画校 宗像市立中央中学校／河東中学校／自由ヶ丘中学校
- 協力 (株)ミエタ、(株)スチームシップ、(株)ベンナース、(株)MAGOME
- 参加者 中央中1年生152名、河東中2年生240名、自由ヶ丘中2年生136名、3年生144名、各校教職員
- 実施内容

| | |
|-----------|---|
| 実施準備 | <ul style="list-style-type: none">・カリキュラム構築／授業枠調整・教材のカスタマイズ／ゲスト講師との調整 |
| オリエンテーション | <ul style="list-style-type: none">・プログラムの目的やゴールの説明・簡単な個人ワークやグループワーク |
| ゲスト講義 | <ul style="list-style-type: none">・講師による講義とグループワーク（ディスカッション）・講師から全体へのフィードバック |
| グループワーク | <ul style="list-style-type: none">・グループワーク（プレゼンテーション作成）・プレゼンテーション練習 |
| プレゼンテーション | <ul style="list-style-type: none">・グループ毎のプレゼンテーション・講師からのフィードバック、全体総評 |
| 発展ゼミ | <ul style="list-style-type: none">・社会実装に向け外部機関との生徒主体の取組みをサポート |

宗像市立中央中学校の1年生は、「環境」をテーマに総合的な学習の時間の中で、海の環境問題について学びながら、どのような取り組みで自分たちの住む地域をより良くしていくことができるのかを考えました。

<カリキュラム構築>

- | | |
|---------|--|
| 1. 単元 | 地域の環境を守る取り組み ～私のふるさと宗像市の環境を守るために私たちにできること～ |
| 2. 単元目標 | 環境問題についての学習を活かし、宗像の環境のために自身ができることを実践し地域に還元する |

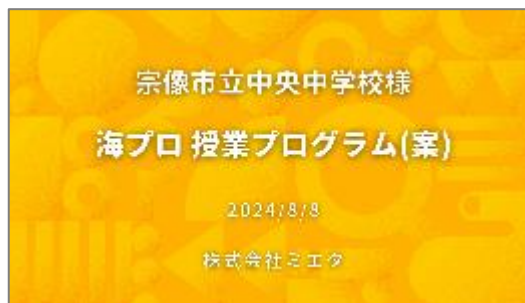
<單元計畫資料拔粹>

<教員との打合せ用資料抜粋>

| 3. 単元計画(約10時間) 京文化祭への発表を含む | | | |
|----------------------------|---|--|--|
| | 学習内容 | めあて・目標 | 準備等 |
| 課題設定 | 1 水俣学習の振り返り | 水俣での学習をふりかえり、水俣病の原因は何だったのかを考え、単元を通じた学習課題を設定する | 事前にアンケートを取り、水俣病の原因についてキーワードを挙げておく キーワードをもとに、水俣病の原因についてダイアモンド型図をつくる 自分たちの生活の背景に生じている環境問題を考える |
| 学習課題 | 私たちの豊かな生活の背景で生じている環境問題を解決するために、どのようなことができるのだろうか | | |
| 情報の収集・整理・分析 | 2 地域の課題を見つける | 外部課題を招き、宗像の環境の良いところを再認識する 宗像で起きている環境問題について調べる(外部講師の委託等) 自分たちができることについて、意見を話し合う | 水俣で学習したことをもとに、自らの生活が地域の環境に影響を与えていることが理解できる生徒 地域への愛着を抱ける生徒 |
| | 3 | | 地域の環境が抱える課題に対し、自ら行動しようとする生徒 |
| | 4 自分たちが取り組むことを考える | 具体的な取り組みとその意義を考える | ・ユネスコ・サイクルの取り組み ○包装紙をへばくする ○コピー・長尺筒づり ○ベクトルでつくったゴール袋・ストリートボール ○ネットボール作りの動画などを準備しておく ○選手募集や販売の手段を用意しておく ・座席帳はExcelソフトを使用する |
| | 5 取り組みを実践する | リユース、リサイクルの取り組みを実践し、地域に還元する方法を理解する | ・あらかじめ用意されているリユース、リサイクルの取り組みの中から、班でやりたい取り組みを選ぶ ・地域の環境のために活動することを念頭に、進捗表等を用い、定期的に座席帳を用いて班で適切だと思ふものを選定する |
| | 6 プレゼン・ポスター作り | 学習した内容をポスター・プレゼンテーションにまとめる | ・班の中で作成したものを一緒に使用する ・ポスターを作る生徒と学習したことと活動をまとめるプレゼンテーションをつくる生徒に分かれる ・ポスターとプレゼンテーションの構成について、外部講師からアドバイスをもらう |
| 表現 | 7 | | 全学習をふりかえり、相手に伝える情報を取捨選択し、適切な表現ができる生徒 |
| | 8 | | ・環境問題に詳しい1年生にプレゼンテーション、ポスター作りのアドバイスをもらう ・構成のアドバイス及び作成を2時間連続で行う |
| 最終的な生徒像 | 9 クラスで発表する | 各班がクラスで発表し、文化祭での発表者を決める | ・クラス代表プレゼンテーションを選ぶときの視点 ○水俣で学んだことがまとめられているか ○宗像ではある環境問題について説明し、自分たちが抱えている課題に熱れているか ○自分たちが行った取り組みを分かりやすく説明しているか ○取り組みの成果と課題について熱れているか |
| | 10 文化祭での発表 | プレゼンテーションを用いて発表する | ・発表者については発表原稿を作成する |

最終的な生徒像

自分自身の生活が環境に与える影響を理解し、地域の環境を守りたいという意志のもと環境に配慮した考え方ももち、地域のために行動しようとする生徒



宗像市立河東中学校の2年生は、「キャリア」をテーマに、地域の職場体験で学んだことを踏まえ、地域住民が「あったらいいな」と思うことを考えて、地域の魅力とともに自分たちの表現方法で発信することに挑戦しました。

<カリキュラム構築>

1. 単元
- 仕事の魅力、地域の課題を他者に発信し、自己を見つめる
2. 単元目標
- 実際に働いている人に話を聞いたり、職場で働いたりすることで、地域の良さや働く上で大切だと思ったことを発信する

<単元計画資料抜粋>

| 次 | 時 | 学習活動(数学)・内容(〇) | 学習して |
|-----|----|---|--|
| 第一時 | 8 | 1 働く意義や自分の適性を学び、職場体験学習への見通しを持つ。 【1】働く上で大切なことについて隣席の方々の話を聞く。 ○ 仕事内容、やりがい、苦勞、マナーなど 【2】自分の適性を知り、自己PRを考える。 ○ 長所や得意なことなど、自己を知る 【1】職場体験から事業所へ訪問し、打ち合わせ 学習課題Ⅰ 自分の適性を知り、職場体験学習での目標を作る。 | ※ 変えていない授業の内容を全体で共有するために、各クラスで事業所ごとにスライドを作成して発表を行う時間を設定する。 ※ 自分のよいところや得意な適性を確認できるように、職業適性を確認するWeb |
| | 18 | 2 職場体験学習の目標を設定する。 【1】目標に対する評価を行い、次の日の目標を設定する。 ○ 相手の意図を持った目標の設定 ○ 職場体験学習の目標を設定するために、振り返りができるプリントを用意する。 学習課題Ⅱ 事業所の魅力をまとめ、自分の今後を見つめる。 | ※ 仕事内容などを確認した上で目標を設定するために、事業所へ訪問する時間を設定する。 ※ 職場体験学習の目標を設定するために、振り返りができるプリントを用意する。 |
| 第二時 | 18 | 3 職場体験学習で学習したことを発表する。 【発表方の自己決定】 【1】仕事内容や自分の今後について整理・分析を行う。 【2】外部の方からスライド等のまとめ方を学ぶ。 【3】事業所ごとに計画を立て、内容をまとめる。 ○ 原稿作成、スライド作成など ○ 発表を見合い、交流する。 ○ 発表内容の発表、改善点など 【4】発表会でプレゼンテーションを行う。 (本時) 15分 ○ 職場体験学習の感想、地域にある事業所の良さなど 【5】プレゼンテーションの発表をまとめたものとともに事業所へ送る。 | ※ 自分の考えを整理・分析できるようにJamboard等を使う。 ※ よりよいプレゼンテーションが出来るように、外部の方を招く。 ※ 聞き手を意識した発表をするために、別グループを審査し合う場を設定する。 ※ 聞き手に分かりやすいように、伝える手段をグループで選択できるように指導する。 |
| | 19 | 【何ができる、できるようになるか】 ・ 働くことの意義や意義、自らの適性について理解することができる。【知識及び技能】 ・ 職場での体験を通して、勤労観や職業観について自ら考え、他者に分かりやすく説明することができる。【思考力、判断力、表現力等】 ・ 働くことについて主体的・積極的に課題解決に取り組み、自らの将来や今後の生き方に生かしている。【学びに向かう力、人間性等】 | |

<教員との打合せ用資料抜粋>

河東中学校 2年

職業探究の学習

2024.9.17

MIETAN

MIETAN 活動

職業探究の学習で得た学びを、地域住民に伝えるための活動を行います。

人材

地域住民の職業体験、職業探究の学習、職業探究の学習、職業探究の学習

教員

職業探究の学習、職業探究の学習、職業探究の学習、職業探究の学習

両側を渡すに役立つで大切にしていること

1. 職業探究の学習

2. 職業探究の学習

3. 職業探究の学習

プログラムの実施計画の概要

本日の活動は、職業探究の学習、職業探究の学習、職業探究の学習、職業探究の学習

職業探究の学習、職業探究の学習、職業探究の学習、職業探究の学習

テーマ及び活動内容

職業探究の学習、職業探究の学習、職業探究の学習、職業探究の学習

職業探究の学習、職業探究の学習、職業探究の学習、職業探究の学習

プログラムの流れ

職業探究の学習、職業探究の学習、職業探究の学習、職業探究の学習

職業探究の学習、職業探究の学習、職業探究の学習、職業探究の学習

実施準備

自由ヶ丘中学校

宗像市立自由ヶ丘中学校の3年生は、「食」をテーマに福岡市の洋菓子店「チョコレートショップ」と連携し、宗像市の食材を使った商品開発に取り組みました。そして、開発した商品の魅力は何か、どうしたら多くの人に届けられるかを考えました。

<カリキュラム構築>

1. 単元
2. 単元目標
- むなかたの魅力再発見！～地元食材を使った特産品開発～
- 「地元食材を使った特産品開発&宗像PRプロジェクト」を通して地域活性に資する取り組みを行う

<単元計画資料抜粋>

【サイクル①】「課題設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」(3時間)

課題をつくるための活動
・宗像市が抱える課題に
関するQ1A(むなかた)
の課題(宗像市の食が
知られていない状況)
・生徒、保護者・地域のフ
ォーラムを基に、宗像の食
の現状について知る。

出てきた課題
・「宗像の食があまり知ら
れていない理由」
・「宗像の食があまり知ら
れていない状況」
・「宗像の食があまり知ら
れていない状況」
・「宗像の食があまり知ら
れていない状況」

課題解決の見通し
【誰に】
宗像市教育委員会
【何を】
宗像市の食があまり知ら
れていない理由
【どのように】
インタビュー形式

主となる活動
宗像市教育委員会(学校管理
課)に対して、インタビュー
を行い、宗像市の食に関する課
題を知る
・宗像の食があまり知られ
ていない状況
・農家の高齢者不足問題

活動のゴール
・宗像の食が知られて
いない現状と農家の
高齢者不足問題など、宗
像市には、食に係る
様々な課題があること
に気付く。

【サイクル②】「課題設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」(5時間)

課題をつくるための活動
・宗像市が抱える課題に
関して、宗像市からの
課題を抽出(宗像PR)
・企業の話を読み、企業と
コラボ企画の商品開発を
行っていくことを知る。
(地元開発)

出てきた課題
・「宗像の特
産品」を「宗
像」をPRしよう!
【何を】
「宗像」をPRしよう!
【どのように】
プレゼン発表会

課題解決の見通し
【誰に】
自由ヶ丘中学校生徒
【何を】
「宗像」をPRしよう!
【どのように】
プレゼン発表会

主となる活動
・企業から、宗像市の特産品を
使ったオリジナルの商品開発の
プロセスを知る。
・プレゼン大会を開き、おすすめ
の食材を決める。

活動のゴール
・PRしたい宗像市の食
材を決め、宗像市のPR
にふさわしい食材開発
を行っていく意欲を高
める。

【サイクル③】「課題設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」(9時間)

課題をつくるための活動
・完成した特産品の試食
(4種類)を行い、最終的に
1つの特産品に絞る。

出てきた課題
・「宗像PRす
るためには、どう
すればよいのだ
ろうか。」

課題解決の見通し
【誰に】
宗像市内外の人に特産品
食が伝わるように
【何を】
販売活動&宗像PR
【どのように】
販売活動&宗像PR

主となる活動
・どのような内容や方法で伝える
のかを考える。(販促戦略)
・Q1Aの課題を基に、後者マ
ターを学ぶ

活動のゴール
・「宗像の食」の魅力を
伝えることができること
ができた。

【本単元の課題設定の工夫】

宗像市にはたくさんのおいしい食べ物があ
り、「道の駅むなかた」にはたくさんの観光
客が来ている現状と「宗像の特産品の知名度
が低い」「宗像のよさがあまり伝わってない
」という現状から、「宗像を知ってもら
うにはどうしたらよいのだろうか」という課題
意識をもつようにする。

【本単元における地域の材の工夫】

本単元は、宗像の食を探究課題として設定し、宗像市
が抱える課題を取り上げながら、課題解決(農作物の地
産地消)を目指している。宗像市の食に係る人を研の中心
にしながら、企業とコラボした特産品開発や宗像PRを
通じて、宗像のおいしいをより多くの人に伝える活動
を行う。

<教員との打合せ用資料抜粋>

宗像市立自由ヶ丘中学校
授業プログラム・探究CDN 打ち合わせ
2024.9.6
MIETAN

日程(事)

| 日 | 実施内容(時間) | 場所 | 参加者 |
|---|----------|-------|--------------|
| 1 | 開校式・入学式 | 本校体育館 | 全校生徒・保護者・教職員 |
| 2 | 1学期中間テスト | 本校体育館 | 全校生徒・保護者・教職員 |
| 3 | 2学期中間テスト | 本校体育館 | 全校生徒・保護者・教職員 |
| 4 | 3学期中間テスト | 本校体育館 | 全校生徒・保護者・教職員 |
| 5 | 3学期期末テスト | 本校体育館 | 全校生徒・保護者・教職員 |

企画内容の表式

| 企画名 | 実施日時 | 実施場所 | 参加者 |
|------------------------|----------|-------|--------------|
| 「宗像の食」の魅力を伝えるための企画 | 2024.9.6 | 本校体育館 | 全校生徒・保護者・教職員 |
| 「宗像の特産品」を使ったオリジナルの商品開発 | 2024.9.6 | 本校体育館 | 全校生徒・保護者・教職員 |
| 「宗像の食」の魅力を伝えるための企画 | 2024.9.6 | 本校体育館 | 全校生徒・保護者・教職員 |

テーマ及び活動紹介

課題の隠れた「タカラ」の探し方・届け方

「宗像の食」の魅力を伝えるための企画

「宗像の特産品」を使ったオリジナルの商品開発

「宗像の食」の魅力を伝えるための企画

プログラムの流れ

以下の流れで進め、まずは、宗像市内外の人に「宗像の食」の魅力を伝えるための企画を実施する。

| 日 | 時間 | 内容 | 参加者 |
|---|-------------|------------------------|--------------|
| 1 | 10:00~12:00 | 「宗像の食」の魅力を伝えるための企画 | 全校生徒・保護者・教職員 |
| 2 | 13:00~15:00 | 「宗像の特産品」を使ったオリジナルの商品開発 | 全校生徒・保護者・教職員 |
| 3 | 16:00~18:00 | 「宗像の食」の魅力を伝えるための企画 | 全校生徒・保護者・教職員 |

ふるさとをよきを見出し、自己の生き方を考えていく子どもの育成

宗像の地元食材を使った特産品開発&むなかたPRプロジェクト～宗像のおいしいを広く多くの人へ～

課題の発見・課題の解決

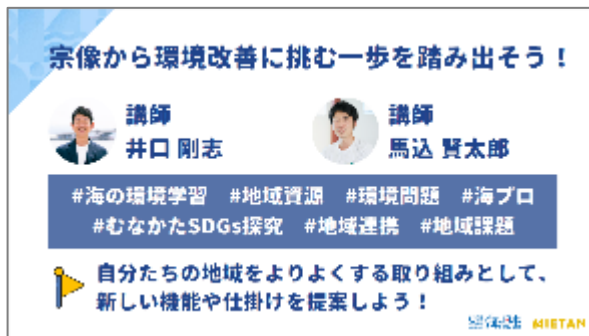
課題の発見・課題の解決

課題の発見・課題の解決

中央中学校1年生は9月6日、未利用魚を有効活用しているベンチャー企業「ベンナーズ」(福岡市)の井口剛志社長から、地域資源の活用について話を聞きました。井口さんが創業したベンナーズは、廃棄されてしまう魚を有効活用する事業を行っています。井口さんは「起業で一番大事なのは誰かの課題を解決すること」と話し、「学んだ知識が世界をより良くします。知的好奇心を持ち続けてほしい」と生徒たちを激励しました。



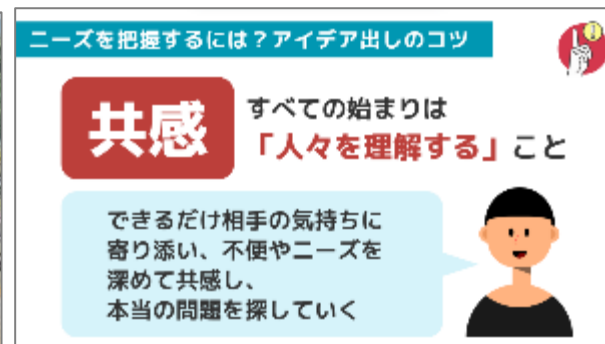
<オリエンテーション・講義資料抜粋>



河東中学校2年生は9月25日、日の里団地再生プロジェクトや鐘崎漁港の活性化に取り組む馬込賢太郎氏と“地域の宝探しカンパニー”「スチームシップ」（長崎県波佐見町）の藤澤姫奈氏から、実際の事例など話を聞きながらグループワークに取り組みました。講師からは、地域の「宝」について、直接足を運び、徹底的に調べて情報を収集。魅力を深掘りすることで、発信の仕方が見えてくるとヒントをもらいました。



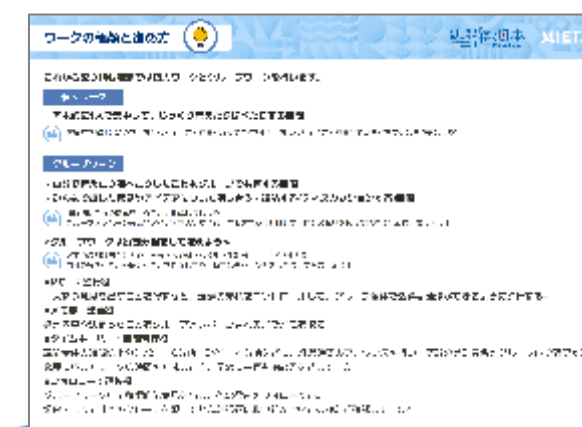
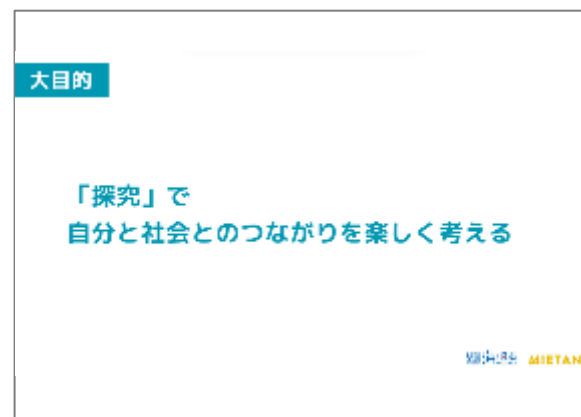
<オリエンテーション・講義資料抜粋>



自由ヶ丘中学校3年生は9月26日、地域の魅力を全国に発信するサポート事業などを行う“地域の宝探しカンパニー”「スチームシップ」(長崎県波佐見町)の藤山雷太氏から、商品の宣伝表現や販売戦略の立て方についてヒントをもらいました。「仲間がいるから大きなプロジェクトが達成できる。皆さんも仲間と本気で向き合ってほしい」と鼓舞しました。



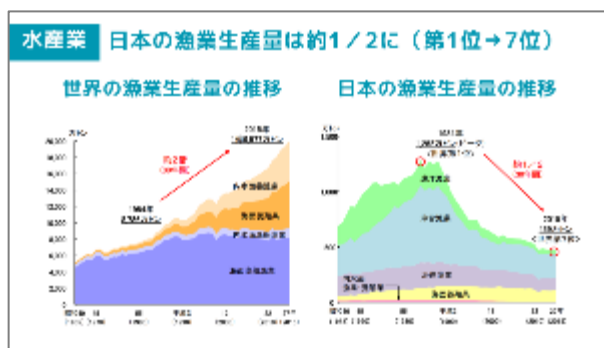
<オリエンテーション・講義資料抜粋>



9月26日、地元の鐘崎漁港の活性化に取り組む馬込賢太郎講師が中央中学校に来校しました。馬込さんは鐘崎漁港や漁業に関する課題を紹介。漁業従事者が年々減少し、平均年齢も上がっていることをグラフで示しました。一方で、鐘崎漁港の活性化に向けた動きもあるといいます。生徒たちは、宗像市の地理的環境や特徴などを踏まえて、ほかにもどんな課題があるのか調べました。



<オリエンテーション・講義資料抜粋>



どんな課題を取り上げる？

- ✓ 海のゴミ問題
- ✓ 海水の汚れ
- ✓ 里山の減少
- ✓ 気候変動による海面上昇

など・・・課題はたくさん

シート①-2

共有されたURLリンクに飛んで今まで学んだ以外に宗像市にはどのような課題があるかを考えよう！

考える上でのヒント

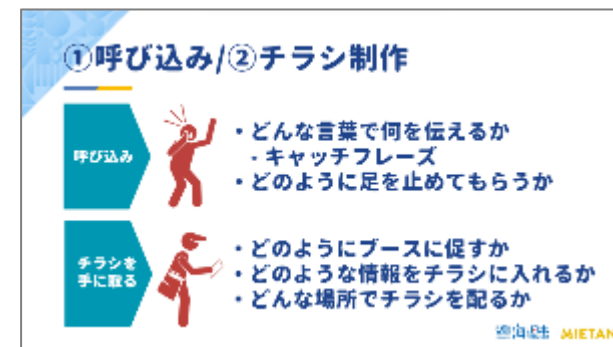
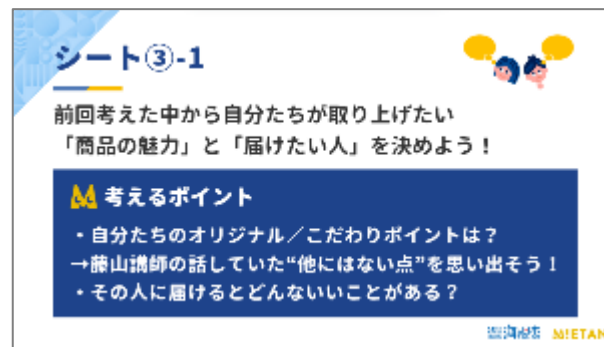
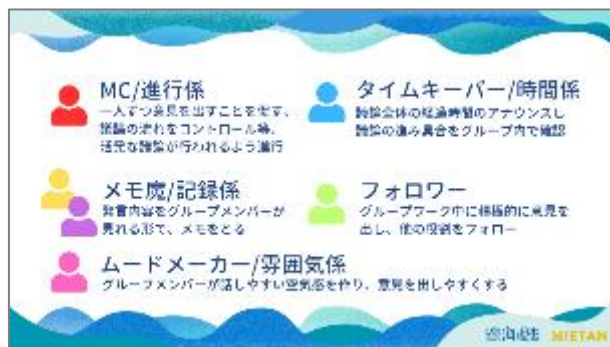
- ・馬込さんのお話を思い出してみる
- 農林業/漁業ではどんな課題があった？
- ・資料のp.24あたりを参考に“弱み”から課題を考えてみる
- ・p.26の課題まとめからヒントをもらう

MIETAN

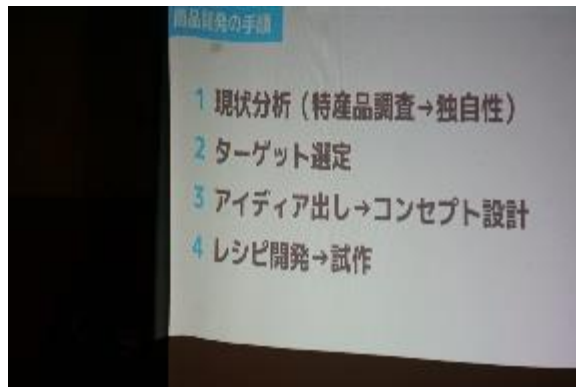
10月2日、株式会社スチームシップでディレクターサポートを務める齋藤桃香講師が自由ヶ丘中学校に来校しました。講師は地域産品などの魅力を届ける業務に従事しており、「まずは『誰に、どの魅力を、どのように伝えるか』を考えること」と説明しました。生徒たちは、開発した商品の特長を再確認しつつ、販売会では「宗像の特産品を使っていることを伝えたい」など、グループの中でさまざまな意見が飛び交いました。



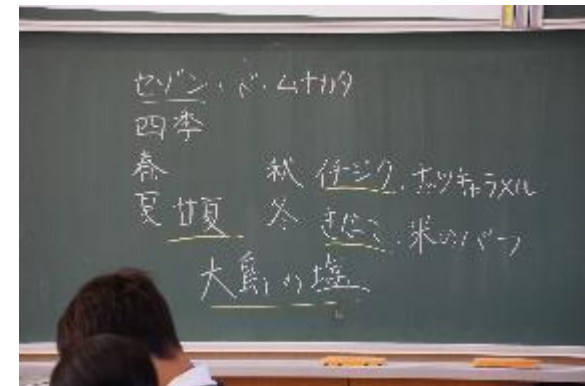
<オリエンテーション・講義資料抜粋>



10月7日、地元の鐘崎漁港の活性化や団地の再生に取り組む馬込賢太郎講師が自由ヶ丘中学校に来校しました。自由ヶ丘中学校2年生は、地元食材を活用したメニュー開発に取り組んでいます。この日は馬込講師から、商品開発の手順やニーズの把握方法について話しを聞きました。講師からは「地元特産品を調査し独自性を見出すこと」「アイデアを寄せ合ってコンセプトを設計すること」とヒントをもらいました。



10月25日、株式会社スチームシップでデザイナーを務める荻島菜月講師、藤澤姫奈講師が自由ヶ丘中学校に来校しました。講師は、ウェブサイトやカタログデザインを担当しており、販売会に向けたチラシや宣伝用ポップを作るコツを生徒たちに教えました。「誰に向けて、何のために、何を伝えたいかが起点。アイデアに困った時は起点に立ち返る」と話し、生徒たちが考えてきたことを基礎に進めることの重要性を伝えました。生徒たちは、議論を重ねてきた販売戦略をいかしつつ、チラシをデザインし、接客時の商品紹介の方法もマニュアルに落とし込みました。



<オリエンテーション・講義資料抜粋>

①呼び込み方法を考える

- 誰に声をかけるか
→ターゲットは誰?
- どこで声をかけるか
→ターゲットがいそうな場所は?
- どんな言葉で足を止めてもらうか
→何が刺さる?
- 足を止めてもらってから何を話すか
→どうしたらブースに行ってくれる?

②手に取るチラシを制作する

- 誰に配るか
→ターゲットは誰?
- どこで配るか
→ターゲットがいそうな場所は?
- チラシに必要な情報はなにか
→何が書いてあると刺さるか
- ブースに足を運んでもらう仕掛け
→チラシを見てどうしたらブースに行こうと思えるか

③ブース内の企画を考える

- ブース内でどんな体験ができるか
→ターゲットは誰か?
その人は何ができるか
足を運んでくれるか
- その企画をする上で必要なものは何か
→ブース内にどんな場所が必要?
- どのようなブース設計にすると良いか
→何を一番目立たせるか

④商品紹介のPOPを制作する

- 必要な情報は何か
→購入する上で必要なことは?
- 伝えたい情報は何か
→届けたい魅力は何か
- どんな言葉で伝えるか
→キャッチコピーは?
- どのようにブース内に引き込むか
→目を引く方法は何か

10月31日、自由ヶ丘中学校3年生はJR博多駅構内コンコースでの販売会に向けたリハーサルを行いました。生徒たちが開発に携わったオリジナルチョコレート「Saison de Munakata (セゾンドムナカタ)」は、宗像の四季を表し、4種類それぞれに宗像の特産品が含まれ、すべてに「大島の塩」が使用されています。生徒たちが制作したチラシやポップ、販売マニュアルを使い、多くの人に宗像の魅力が届くように取り組みました。



<作成したチラシ・購入御礼カード>



10月、各参画中学校にてそれぞれプレゼンテーション資料作成のための講習を実施しました。株式会社ミエタの島川氏がファシリテーターを務め、課題の設定から、プレゼンテーション資料作成の手順、プレゼンテーション時のコツなどを伝授する授業を実施しました。

<講習用スライド抜粋>

①伝える 課題を知って行動するきっかけをつくる
例：〇〇に掲示するポスター

②体験する 課題に関連した活動を体験してみる
例：海での〇〇活動／〇〇の回収活動

③試してみる 自分たちのアイデアを試して検証してみる
例：〇〇の調査や実験

提案を選ぶ基準

- 1 喜ぶ人がイメージできるか
→その提案をすると、誰に、どんないいことがある？
- 2 ほかの提案よりもこの提案がいい！という理由はあるか
→他の提案との違いやこの提案ならではの点は？
- 3 本来の目的＝課題解決に近づくか
→そもそもどんな課題を解決したいのか？立ち返ってみる

グループワーク

提案を具体的に考えて、
プレゼンテーションに
入れる情報を整理しよう

| | |
|---|---|
| <p>4. 海のゴミ問題 1年間に●トンのごみ キレイな海を保つには？</p> | <p>5. 提案 ビーチをキレイにする 清掃活動</p> |
| <p>6. 具体的なイメージ 対象は宗像の小学4-6年生 親子で参加できる ・ゲーム形式</p> | <p>7. スライドのポイント 親子で楽しみながら 体験することができる</p> |

プレゼンテーションとは

情報やアイデアを
資料や話し方を工夫して

相手にわかりやすく伝える方法

提案の具体例

楽しみながら海の環境問題を考えるイベントを開催する

目的：海の環境問題を知る／体験する
いつ：夏休みの日曜日、昼間
誰が：小学4年生～6年生とその保護者
どこで：玄海の家
何を：ゲーム形式で楽しみながら、
海岸をキレイにする清掃活動を体験する

スライドのポイントを意識

- ①自分の言葉で表現しよう
- ②引用元を書こう
- ③文字はできるだけ少なくしよう

雰囲気づくり

聞く側の姿勢は？
話し手を見て頷く、反応する
話終わったら大きな賞賛の拍手を
「また話したい」
雰囲気作りが
プレゼン力UPに！

10月25日 研究発表会

10月29日 プレゼン・講評

※宗像市内の教職員、教育委員会が視察

※(株)MAGOME 代表取締役 馬込 賢太郎氏

(株)スチームシップ デザイナー 藤澤 姫奈氏が来校

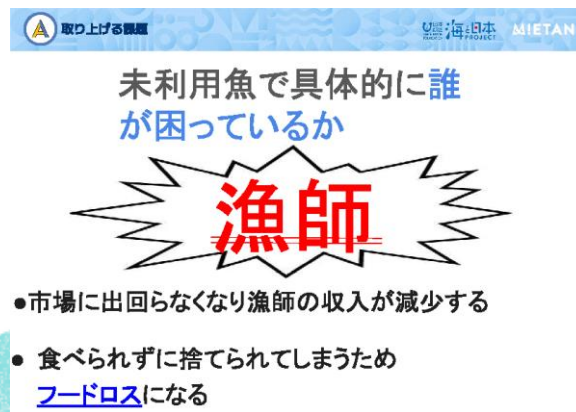
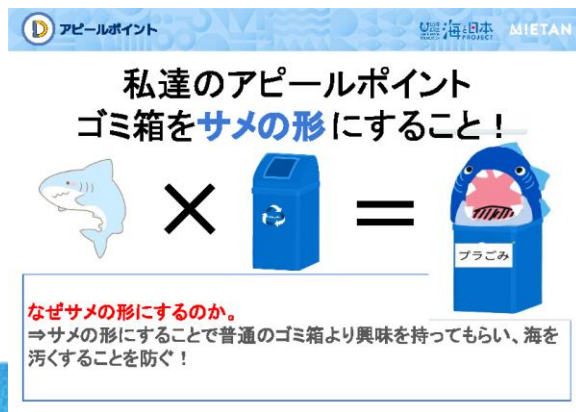
河東中学校2年生は10月25日、研究発表会に臨みました。各教室にグループ毎のプレゼンブースを設けて、来校した教職員の方々に地域の仕事の体験と地域課題の解決策「あったらいいな」を発表しました。29日には馬込講師と藤澤講師が来校。各クラスの代表グループがプレゼンに挑みました。講師は、「素晴らしいアイデアで、ぜひ実現に向けて動き出してほしい」と講評しました。



中央中学校1年生は10月31日、グループでまとめた解決策の最終発表に臨みました。これまでの授業で講師を務めた馬込賢太郎さんも来校し、発表を聞きました。生徒たちは、ごみの削減や未利用魚の活用など練り上げた企画案を提案。各プレゼンを聞いた馬込さんは、「課題に対し、楽しく解決するという提案が素晴らしい」「おもしろい内容なので協力してくれる人たちもいるはず。ぜひ実現してほしい」と発表内容を高く評価し、次のステップに向けて背中を押しました。また、授業を担当した花田尚子教諭からも「プログラムが始まった当初は、これほどのプレゼンができるとは思わなかった」と、約2ヶ月にわたって、プログラムに取り組んだ生徒たちの成長ぶりに目を丸くしていました。



<生徒発表スライド抜粋>



11月13日、自由ヶ丘中の3年生が商品開発したオリジナルチョコレートの販売会がJR博多駅中央改札口前特設コーナーで開催されました。生徒たちが販売を担当し、宗像の産品を使ったチョコ4種類のセット「セゾン・ド・宗像」をPRしました。自作のチラシや宣伝用ポップを使いながら商品をPR。足を止める人に試食をすすめ、オリジナルチョコのこだわりを説明する生徒たちの姿もありました。計800セットが完売しました。



中央中学校の1年生は、プレゼンした内容が実社会で活用されることを目指し、発展ゼミとして継続して取り組みました。中心となる生徒で実行委員会を形成し、昼休みや放課後等の課外の時間を使って、ミエタ島川さんのサポートを受けながら学外の方々とやり取りし、ごみ箱の設置やポスターの掲示など交渉を重ねました。実際に奇抜な形のごみ箱やポスター制作まで行いました。



自由ヶ丘中学校の2年生は地元の食材調査やメニュー開発、試作に取り組んできました。今回学んだ宗像の食材を多くの人に伝えたいと考え、PRイベントを道の駅むなかたで実施することを企画。イベントに向けて、チラシを作成して配布するなど準備を進めました。2月28日のイベント当日は、考案した商品を生徒みずから販売。「いのししバーガー」「ブリ入りアカモク素麺（そうめん）」などのほか、エコバッグといったオリジナルグッズも。地元野菜をふんだんに使ったカレーピザは、焼きたてを生徒が陳列するとあっという間に売り切れました。



—大学生と海の課題解決を考える座談会—
「宗像国際環境会議学生分科会」



玄界灘の海水温度の上昇により沿岸部に広がる磯焼け、漂着ゴミ（マイクロプラスチック）の問題を中心に「海の鎮守の森」構想を掲げ、海の再生事業に取り組みながら、近年の急激な海の変化への提言や情報を国内外に発信するため、宗像大社、宗像市を中心とする組織として2014年に設立。毎年海の環境問題などについて議論する会議を開催し、2024年で11回目を迎えました。
<https://www.munakata-eco.jp/>

本会議の開催に合わせて、大学生20人が集まるワークショップに加え、中央中の7年生152人とともに双方の学びを深める交流を行いました。中学生のプレゼンを受けて、大学生のアイデアや意見を交換し、中学生発案の企画のブラッシュアップに取り組みました。

概要

- 企画名 宗像国際環境会議学生分科会
- 日時 2024年10月11日(金)10:00-16:00
- 場所 午前の部：宗像大社 清明殿
午後の部：宗像市立中央中学校 体育館
- 参加者 県内大学生20人、中央中7年生152人
- 内容 午前の部：宗像市の海洋環境について考え、宗像市の豊かな海を残すために
できることを考えるワークショップ
午後の部：中学生の学習内容のプレゼン。大学生との意見交換

<宗像市ニュースリリース>



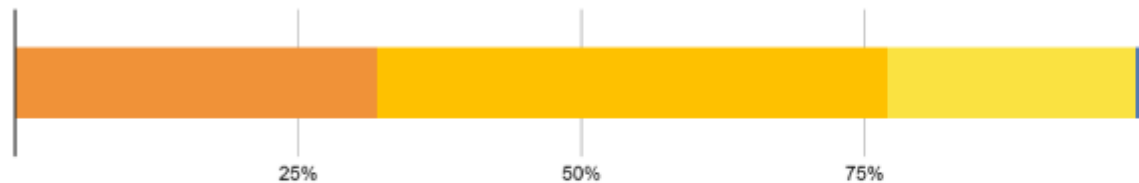


アンケート（生徒・教員の声）

生徒事後アンケート結果（全体サマリ・中央中学校）

＜今回のプログラムの満足度＞

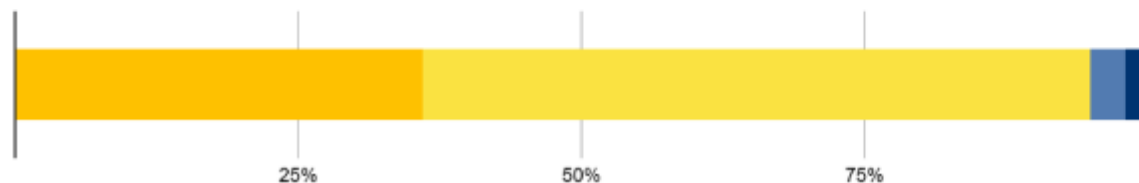
5 4 3 2 1



満足度平均：4.08

＜講義とワークの難易度＞

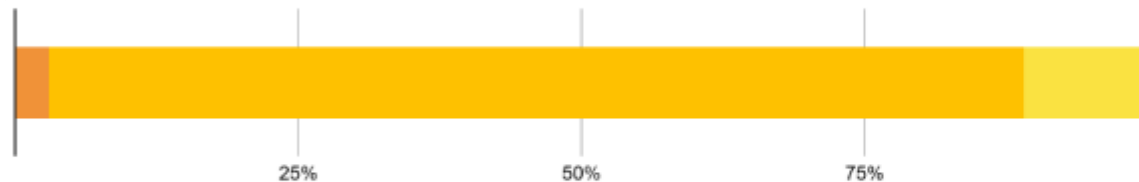
難しすぎた 程よい難しさだった 普通だった やや簡単だった 簡単すぎた



簡単すぎた理由：いつも発表をしているから

＜行事全体の時間設定＞

長すぎた 適切だった 短すぎた



長すぎた理由：同じことを繰り返しているような気がしたから

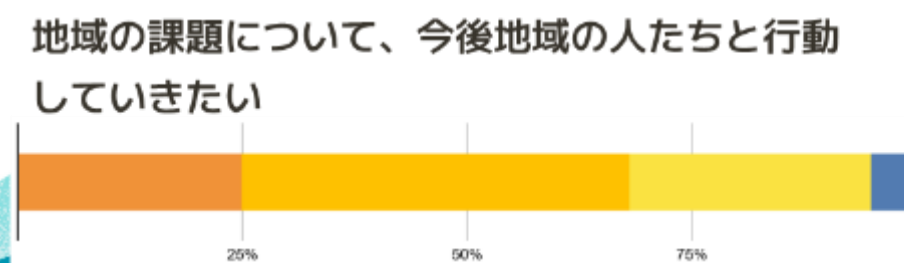
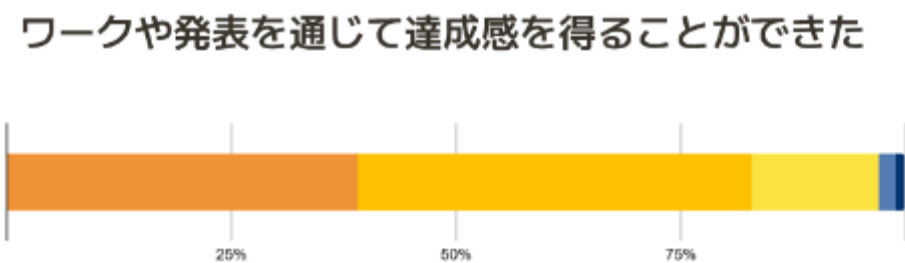
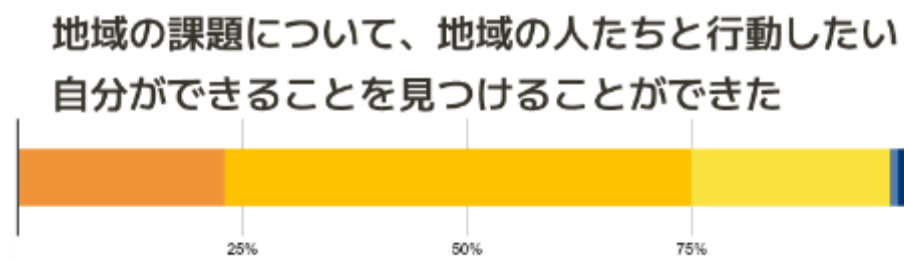
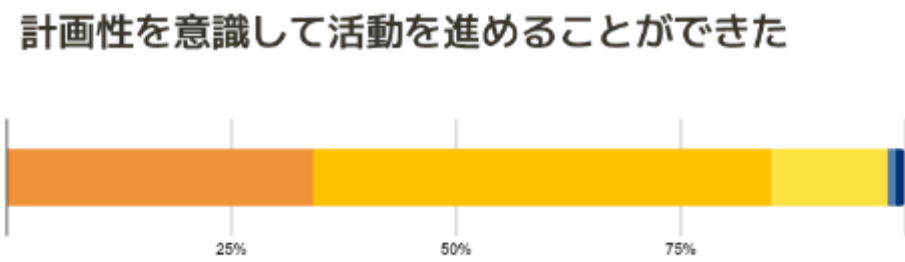
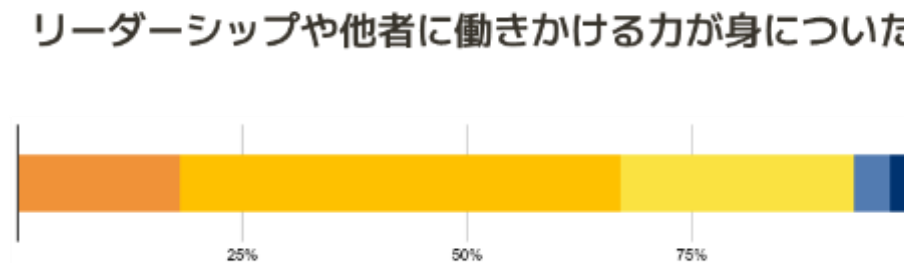
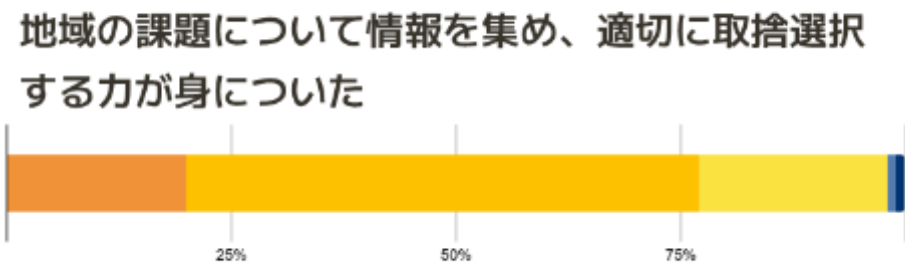
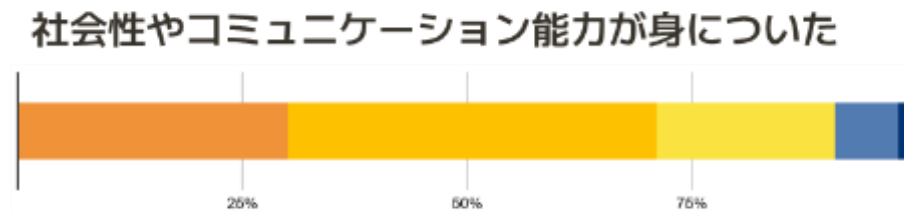
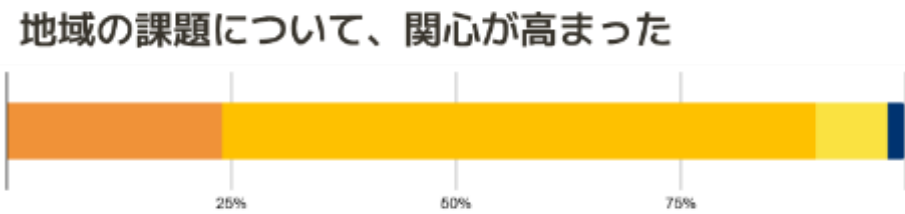
短すぎた理由：地域の課題などについてもっと調べたりしたいなと思いました
もう少しみんなとの意見を交流し、楽しみたかった

＜雑感＞

プログラム自体は高い満足度で、難しさを感じている生徒も多かった。生徒たちの主体性を引き出すワークが中心で、自分自身でやり方を模索したり、コミュニケーションを取る必要があったため、通常授業にはない緊張感と達成感があったと推察される。

生徒事後アンケート結果（プログラムを通じて体得したこと・中央中学校）

■ とても思う
 ■ そう思う
 ■ どちらとも言えない
 ■ そう思わない
 ■ 全くそう思わない



プログラムを通じて得た学びや新しい発見、心に残ったこと

めちゃめちゃ褒めてもらったすごく嬉しかったです。

大学生の方とか市役所の方とかなどともあまり関わる機会が少ないので新鮮で貴重な体験でした。

私はあまり人の前にでて話すことが全然なくて緊張したりして、選ばれないだろうなと思っていたけど、まさかのまさかで選ばれたのでとても嬉しかったです。本番は最初のクラスの発表と違って人数も増えたし、先生やしましまなどがみていてとても緊張しました。だけど、班のみんなが「頑張ろう！」と勇気づけてくれて、最後までやることができました。なのでとてもいい経験だったと思います。

世界中にはゴミや環境を壊すものがいっぱいあるから自分たちが考えて行動することが大切だと学びました。

自分たちで話し合って考えをまとめて、それを大人の方々に発表するということは私にとって初めてだった。だからプレゼンづくり・発表が心に残った。

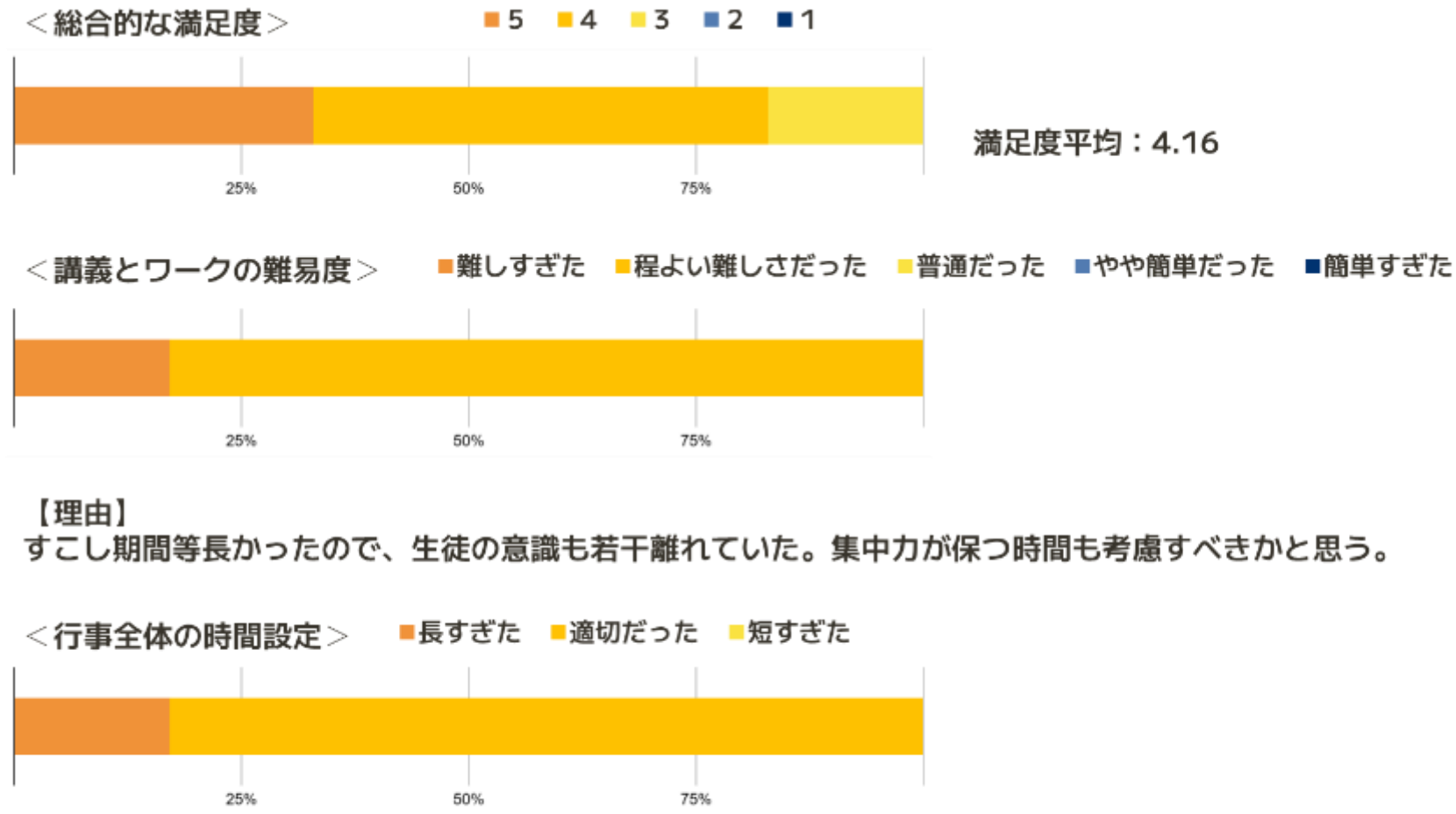
プレゼンを作るなら現地に行って写真などを貼り付けたらより効果的というのを学んだ。

もっと学びたかった・聞きたかった・やりたかったこと

漁協の人たちと協力して未利用魚の販売とレシピを書いたチラシの配布

宗像では具体的にどのような取り組みがされているのか

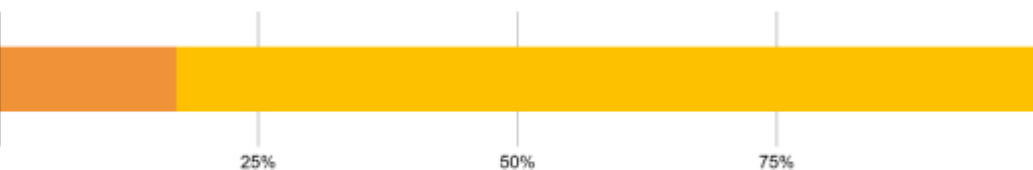
教員事後アンケート結果（中央中学校）



【理由】

すこし期間等長かったなので、生徒の意識も若干離れていた。集中力が保つ時間も考慮すべきかと思う。

＜行事全体の時間設定＞



【改善点】

話し合いの説明の時間が必要なほど学力が低いので、もう少し簡潔に何を考える・どうするが具体的であればよかったかと思う。補佐的に教員が回るには時間が足りず、見れていない生徒がそのままになっている状況であった。

＜雑感＞

プログラムへの満足度は高く、難易度も適切であるとの評価。プログラムの期間は少し長さを感じており、生徒の集中力維持の課題が示された。また、学力が低い生徒へのサポートに関して、もう少し簡潔で具体的な示唆を与える場面も必要だった。

今回の講義を通じて期待できる生徒たちの変化や影響について

未利用魚や海洋ゴミについて関心がなかった生徒がほとんどだったと思いますが、知らなかったことを知り、解決策を具体的に考える活動をしたことで、興味関心をもって自分に何ができるかを考えたり行動に移したりできるようになっています。

情報を集め、まとめる力がついたと思います。また、生徒アンケートでは、総合の学習前と比べて地域の課題に対する関心や解決したい気持ちが高まったと感じている生徒が全体の7割を超えていました。地域の課題を解決しようとする意志をもった生徒が今回のゴール像なので、その生徒の姿には近づけたのではないかと思います。

今後の授業に活用できそうなポイント

スライドを使って、班で協力して1つのものを作り上げることができたので、活用できればと思う。

プレゼンテーションの使い方についての説明が分かりやすかったです。今後もプレゼンテーションを作成する際に説明資料として使わせていただけるとありがたいです。大学生を交えた座談会が非常に好評でした。協力していただける団体がいらっしゃるのであれば、今回のような中間発表の場は継続していきたいと思いました。

今後の探究学習に関するご要望

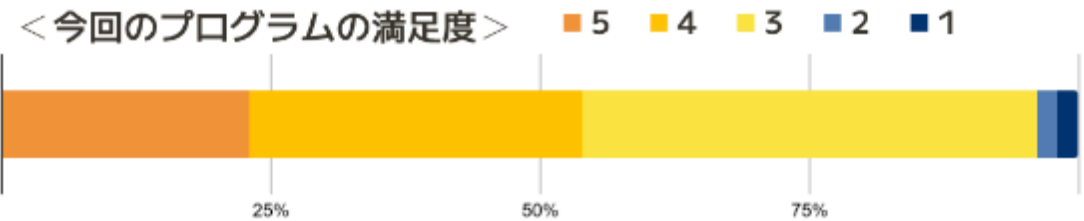
中央中学校が現在主題研究を総合的な学習の時間にあてているため、探究学習の流れを「課題設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の段階に則るかたちにしていただけると良いかと思います。
3年間を通して最終的なゴールにつながるような授業づくりを考えていただけると嬉しいです。8学年は就労についての総合を行うため、地域の課題と結び付けるために、CSRなどについて学びながら、地域の課題に企業がどのように向き合っているのかを学べるようにしたいと思っています。

講義やワークに関するご要望

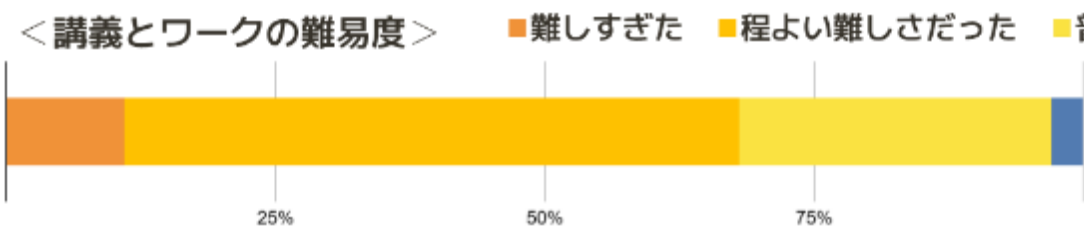
ワークはもう少し中学生に向けた言葉づかいで、より具体的な指示がよい。

今回、様々なGTにお越しいただいたことで生徒の知見が広がりましたが、宗像市以外にも当てはまる問題に生徒の興味関心が移ったように思います。GTの方の講義の内容等については、早い段階での打ち合わせが必要かと思いました。

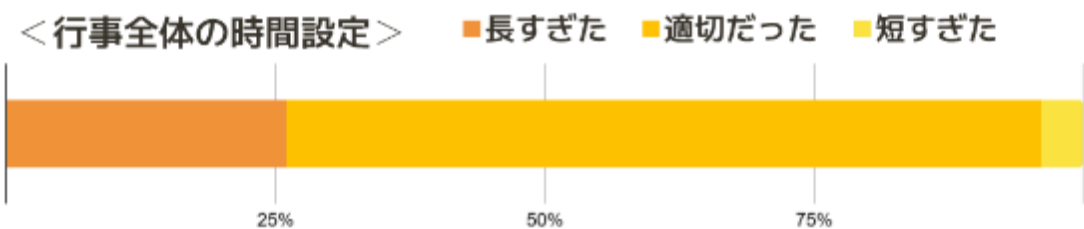
生徒事後アンケート結果（全体サマリ・河東中学校）



満足度平均：3.69



難しすぎた理由：考えたことがないことが多かったから / アイディアがすぐには浮かばなかったから



長すぎた理由：ずっと話を聞いているのがきつかった
スライドを作って練習も終わって時間が結構余ったから

短すぎた理由：アイデアを考える時間が足りなかったから・全員発表できなかったから

＜雑感＞

プログラムの満足度平均は3.69と達成感を得られなかった生徒もやや見られた。グループワークに取り組む時間の確保がやや不足、一方でコツをつかんだ生徒のスライド作成スピードは速かったことから、難易度の調整が課題となった。

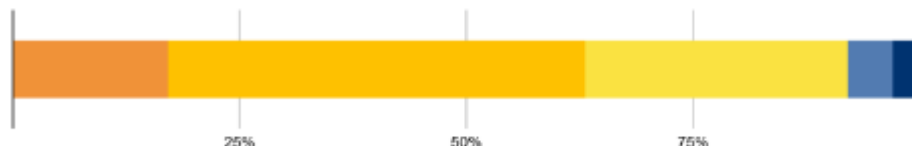
生徒事後アンケート結果（プログラムを通じて体得したこと・河東中学校）

■とてもそう思う
 ■そう思う
 ■どちらとも言えない
 ■そう思わない
 ■全くそう思わない

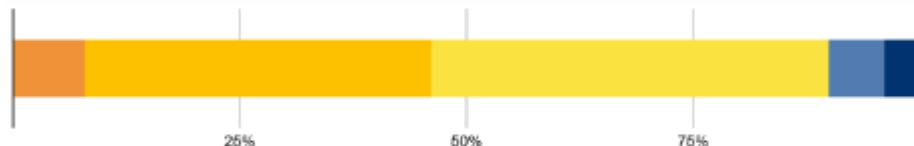
地域の課題について、関心が高まった



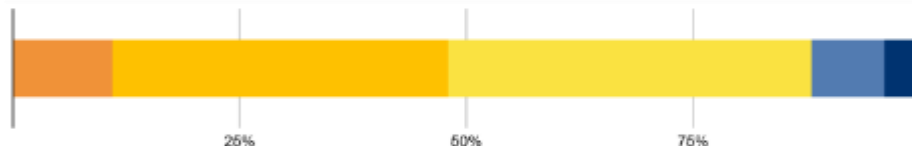
社会性やコミュニケーション能力が身についた



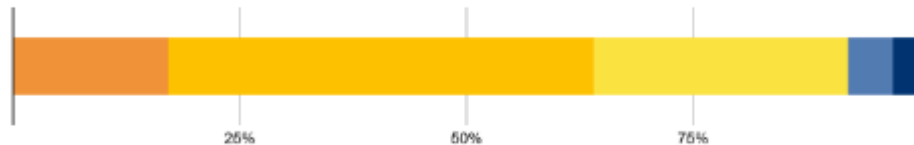
地域の課題について情報を集め、適切に取捨選択する力が身についた



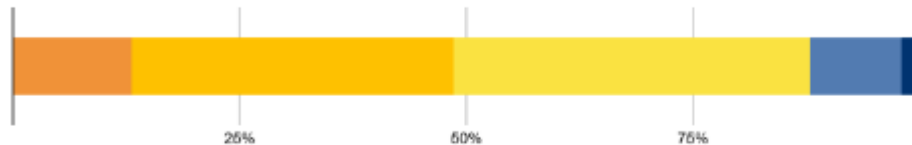
地域の課題について、地域の人たちと行動していきたい自分ができるところを見つけたことができた



計画性を意識して活動を進めることができた



地域の課題について、今後地域の人たちと行動していきたい



ワークや発表を通じて達成感を得ることができた



生徒感想／コメント（河東中学校）

プログラムを通じて得た学びや新しい発見、心に残ったこと

私たちの活動などには、いろいろな人が関わってくれていると知りました。

たくさんの情報から、どれが視聴者からみてわかりやすいか考えることが大切だとわかった。

課題は表に見えるものがすべてではないことが分かりました。

自分たちでも行動を起こせば周りの人に影響を与えられる。

もっと学びたかった・聞きたかった・やりたかったこと

他の場所にも職業体験をしに行きたかった。

もっと長い期間がよかった。飲食店などをふやしてほしい。

もっとスライドの工夫がしたかったのと、発表時間がもう少しほしかったです

ミエタなどの企業系や他にどんなことをやっているか聞きたかった。

講師へのメッセージ

一ヶ月間ぐらいの間に様々な事を学んで体験してすごく貴重な経験となったのでこれから学んだことをいかしてもっと頑張りたいと思いました。

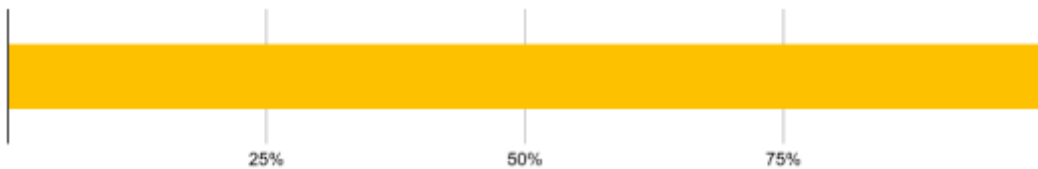
アドバイスがわたしが気づけなかったことを的確に話しててすごいと思いました。

すごく話がわかりやすく聞きやすかったし面白くて楽しかったです。

教員事後アンケート結果（河東中学校）

<総合的な満足度>

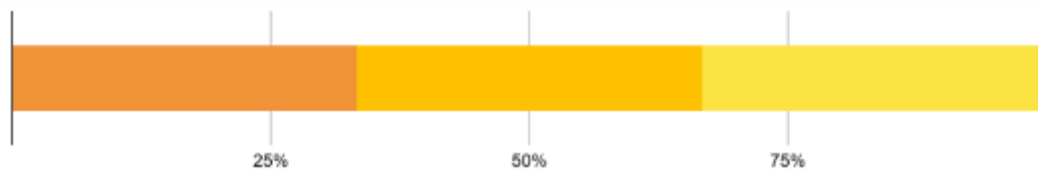
■ 5 ■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1



満足度平均：4.00

<講義とワークの難易度>

■ 難しすぎた ■ 程よい難しさだった ■ 普通だった ■ やや簡単だった ■ 簡単すぎた



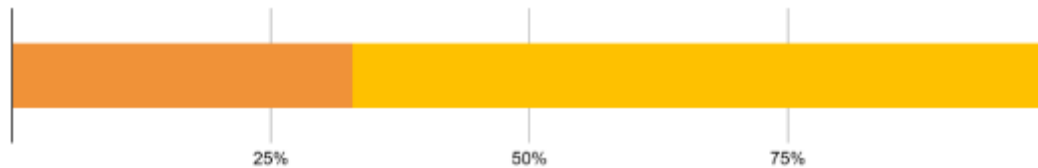
【理由】

4時間連続の講義の際に、手が止まっている生徒が多かったため。

設問の意味がわからずに、教師のサポートがなければ次に進めない生徒が多数見られていたため。

<行事全体の時間設定>

■ 長すぎた ■ 適切だった ■ 短すぎた



【改善点】

時間が押していた部分があり、結果的に20分ほど時間のロスが見られたため、ラストの方はお1人ずつコメントをする等の対応があってもよかったのではないかと感じた。

<雑感>

プログラムへの満足度は高く、難易度は普通であったとの評価。4コマまとまった時間でプログラムを進行したが、集中力が途切れた生徒を復帰させる手立てに課題があった。

メディア掲出

メディア掲出

公式サイト

「ささっとー」
(読売新聞ニュースサイト)

合計10記事掲載

- ① 海の幸！山の幸！ 宗像の中学生が地元食材の魅力を学んでPR
- ② 宗像の中学生が環境改善に挑む！
「むなかたSDGs探究」が開講
- ③ 中学生が宗像特産チョコ開発 商品の魅力どう伝える？
- ④ 宗像の中学生が環境改善に挑む！
課題を調査し解決案を熟考
- ⑤ 大学生と海の課題解決を考える座談会 宗像・中央中の1年生



メディア掲出

公式サイト

「ささっとー」
(読売新聞ニュースサイト)

合計10記事掲載

- ⑥ 特産品で作ったチョコの魅力を届けよう！ 宗像・自由ヶ丘中の生徒が商品PR策を立案
- ⑦ 働くことから地域の魅力を深掘り！ 宗像・河東中で「SDGs探究」
- ⑧ 中学生考案のチョコが商品に JR博多駅での販売会は盛況
- ⑨ 宗像の中学生が環境改善に様々なアイデア グループで最終発表
- ⑩ 中学生が道の駅むなかたで販売会 地元食材のメニューで魅力発信



メディア掲出

※動画やその他成果物は別紙報告書に記載

新聞



中学生と大学生 座談会

海洋ごみなど解決策探る



読売新聞地域版 10月17日付朝刊



自由ヶ丘中生ら 福岡で販売会



読売新聞地域版 11月14日付朝刊



宗像の食材使いチョコ商品

老舗洋菓子店、福岡女子大と連携



自由ヶ丘中3年140人

アナゴしょうゆ 若い発想魅力発信

開発成功ならバリエーションも



西日本新聞地域版
8月27日付朝刊



西日本新聞地域版 9月25日付朝刊



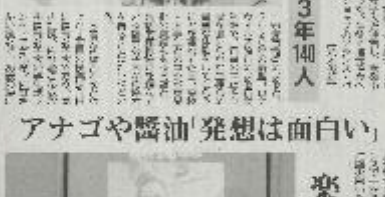
地元食材使いチョコ開発



毎日新聞地域版
7月26日付朝刊



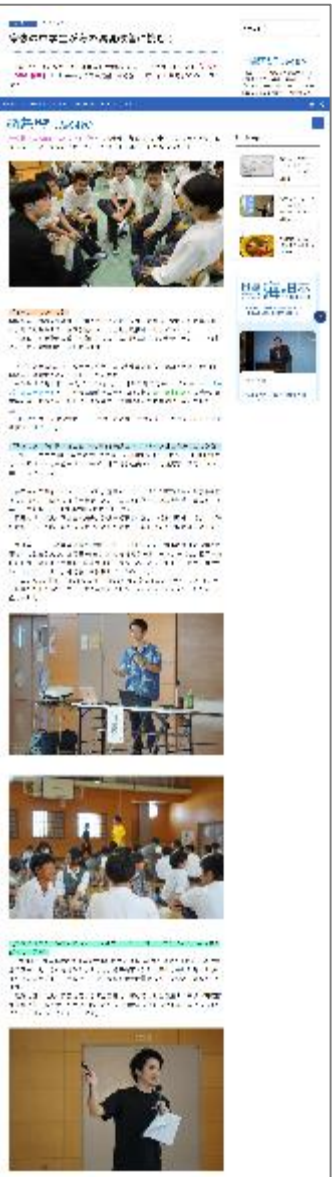
老舗チョコ専門店、大学とコラボ 地元食材使い商品開発へ



メディア掲出

WEBメディアほか

海と日本PROJECT inふくおか
・10月31日掲出開始



宗像市広報誌
・むたなかタウンプレス1月号



海と日本PROJECT むなかたSDGs教室

事業報告書 3

事業成果物サマリー



成果物

読売新聞西部本社が運営する福岡をはじめとした九州の様々な情報をお届けするローカルWEBメディア「福岡ふかぼりメディアささっとー」に海と日本プロジェクトの特設コーナーを設け、イベント情報などを発信しました。

<https://sasatto.jp/pro/umimunakata/>

<PC>



◁▽バナーをクリック（タップ）すると、海と日本プロジェクトの特設コーナーにリンクします。

<スマホ>



<配信記事一覧>

むなかたSDGs教室

記事数 19

総PV数 3,766

記事数 19

総PV数 3,766

※2024/7/1~2025/3/28

8月18日に開催した「むなかたSDGs教室」の様を撮影した動画を編集し、Youtubeにアップしました。参加した小学生や学生ボランティアのインタビューも豊富に盛り込み、参加者がひと夏の思い出を楽しみながら海について学んだ体験を発信しました。また、参加者の笑顔溢れる多くの写真をスライドショーにまとめてアップしました。

<動画> <https://youtu.be/3plyHoiorEY>



<スライドショー> <https://youtu.be/WkDkNksnHeU>

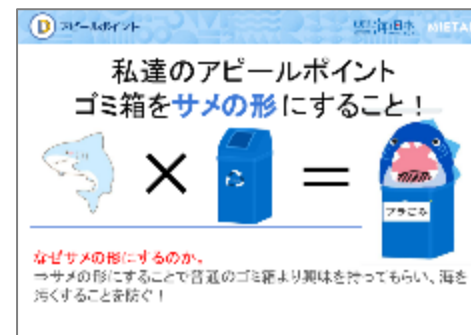
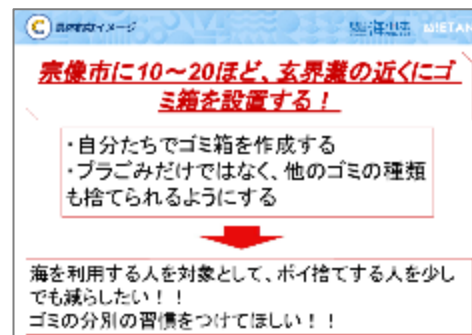
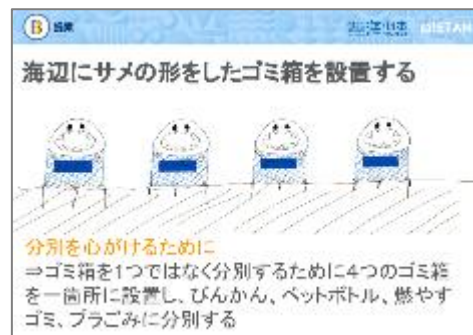
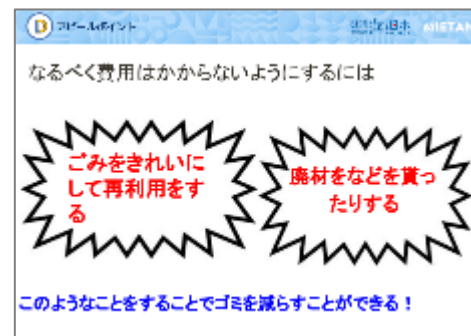
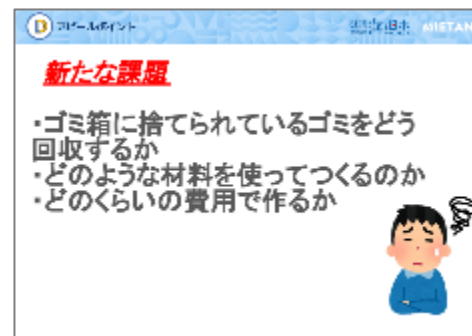
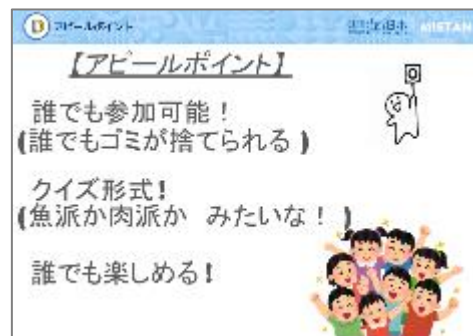
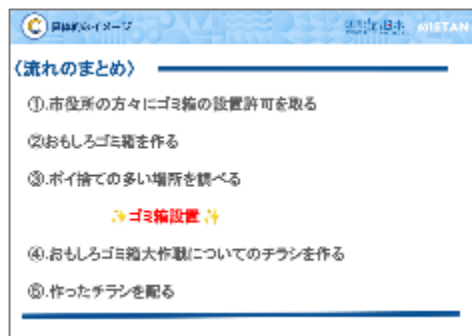
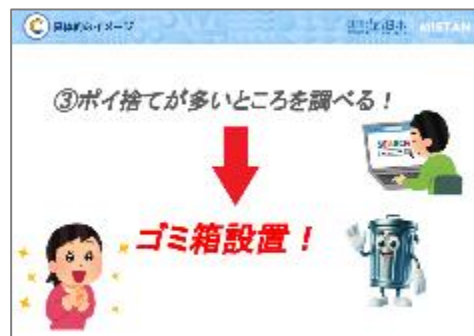
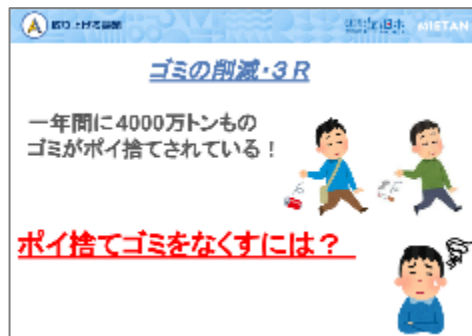


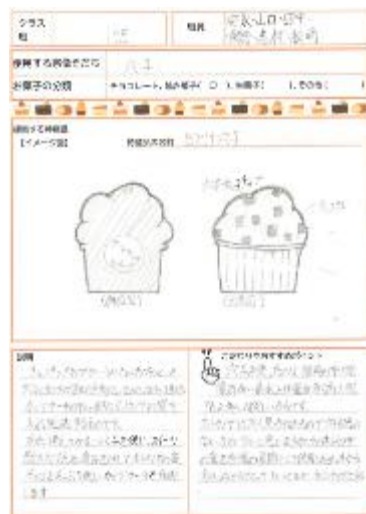
2024年9月～2025年3月にかけて実施した「むなかたSDGs探究」について、10月に行ったグループワークとプレゼンテーションの様子を撮影した動画を編集し、Youtubeにアップしました。中学生が主体的に企画案をグループで練り上げていく様子や、豊かな発想の課題解決策を堂々と発表している姿を発信しました。

<動画> <https://youtu.be/u37aMmlGIRY>

<スライドショー> https://youtu.be/B_Af6yw_qug







成果物

パノラマチラシ

海の体験イベント「むなかたSDGs教室」や中学生の探究学習プログラム「むなかたSDGs探究」の様様、海洋ごみ問題啓発記事を掲載したパノラマチラシ（新聞サイズ表裏8頁相当）を作成、8万部配布しました。

<表>



<裏>



<配布先>

| | |
|-------------------|--------|
| 宗像市内小学校／全15校全児童配布 | 7,500部 |
| 宗像市内中学校／全7校全生徒配布 | 3,500部 |
| 宗像市役所 | 3,000部 |
| 少年自然の家 玄海の家 | 400部 |
| 海の道むなかた館 | 200部 |
| くりえいと宗像 | 500部 |
| サンリブ宗像店 | 500部 |
| イオンモール福津 | 500部 |
| 福岡県立宗像中学校 | 600部 |
| 福岡県立宗像高等学校 | 600部 |
| 福岡教育大学 | 200部 |
| 日本赤十字九州国際看護大学 | 100部 |
| 東海大付属福岡高等学校 | 200部 |
| 九州産業大学 | 100部 |
| 九州工業大学 | 100部 |
| 中村学園大学 | 600部 |
| 福岡西南学院大学 | 200部 |
| その他関係団体へ配布 | 3,300部 |

海を守ろうむなかた実行委員会

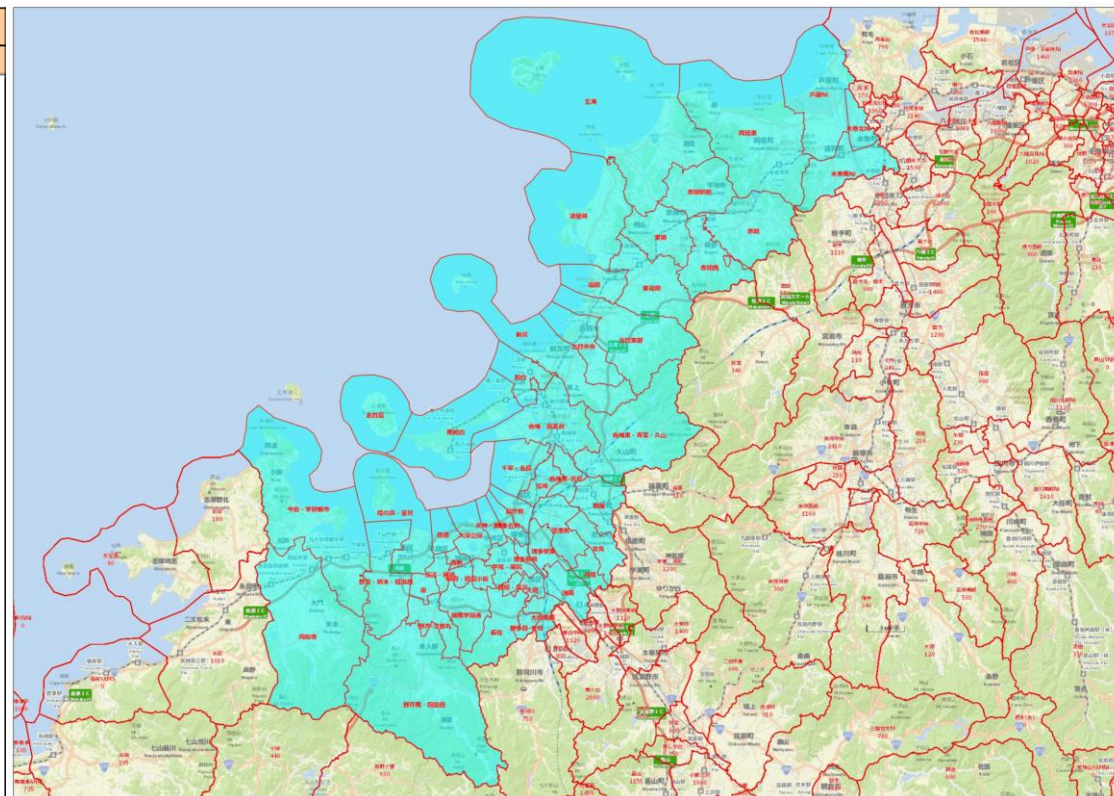
パノラマ8

07年3月7日(金)

57,820 枚

B1

| 読売 | | | 読売 | | | 読売 | | |
|-----|----------|-------|-----|----------|-------|-----|--------|--------|
| 地区 | 販売店 | 折込枚数 | 地区 | 販売店 | 折込枚数 | 地区 | 販売店 | 折込枚数 |
| 西区 | 姪の浜・室見 | 1,660 | 博多区 | 月 隈 | 480 | 宗像市 | 玄 海 | 260 |
| | 野方・橋本・姪浜 | 1,340 | | 空港前 | 1,790 | | 【小計】 | 4,080 |
| | 今宿・学研都市 | 820 | | 諸 岡 | 2,560 | 遠賀郡 | 水巻北Ni | 900 |
| | 周船寺 | 1,860 | | 【小計】 | 6,700 | | 水巻 南Ni | 1,080 |
| 早良区 | 【小計】 | 5,680 | 東区 | 南和白 | 370 | | 芦 屋Ni | 640 |
| | 西 新 | 470 | | 和 白 | 900 | | 岡垣東 | 1,090 |
| | 百 道 | 390 | | 志賀島 | 70 | | 【小計】 | 3,710 |
| | 荒江・藤崎 | 1,690 | | 香椎・高美台 | 1,970 | | 【合計】 | 57,820 |
| 城南区 | 原 | 1,660 | | 千早・名島 | 2,140 | | | |
| | 野芥・次郎丸 | 1,690 | | 香椎南・筥松 | 1,200 | | | |
| | 野芥南・四箇田 | 1,010 | | 香椎東・青葉・久 | 1,000 | | | |
| | 【小計】 | 6,910 | 古賀市 | 松 崎 | 1,170 | | | |
| 南区 | 別府・田島 | 530 | | 県庁前 | 490 | | | |
| | 城南学園通 | 2,610 | | 【小計】 | 9,310 | | | |
| | 【小計】 | 3,140 | | 古賀中央 | 690 | | | |
| 中央区 | 野間・高宮 | 840 | 粕屋郡 | 古賀東部 | 400 | | | |
| | 長 住 | 2,440 | | 【小計】 | 1,090 | | | |
| | 大 橋 | 430 | | 新 宮 | 680 | | | |
| | 野多目・老司 | 740 | | 志 免 | 1,480 | | | |
| 博多区 | 大橋南部 | 1,860 | 福津市 | 粕 屋 | 640 | | | |
| | 【小計】 | 6,310 | | 【小計】 | 2,800 | | | |
| | 天神・舞鶴 | 360 | | 福 間 | 1,330 | | | |
| | 平尾・薬院 | 2,350 | | 東福間 | 810 | | | |
| 博多区 | 小 笹 | 1,490 | 宗像市 | 津屋崎 | 640 | | | |
| | 大濠公園 | 1,110 | | 【小計】 | 2,780 | | | |
| | 【小計】 | 5,310 | | 東 郷 | 1,130 | | | |
| | 博多五町 | 360 | | 赤間西 | 130 | | | |
| | 博多駅前 | 200 | | 赤間駅前 | 1,190 | | | |
| | 博多駅東 | 1,310 | | 赤 間 | 1,370 | | | |

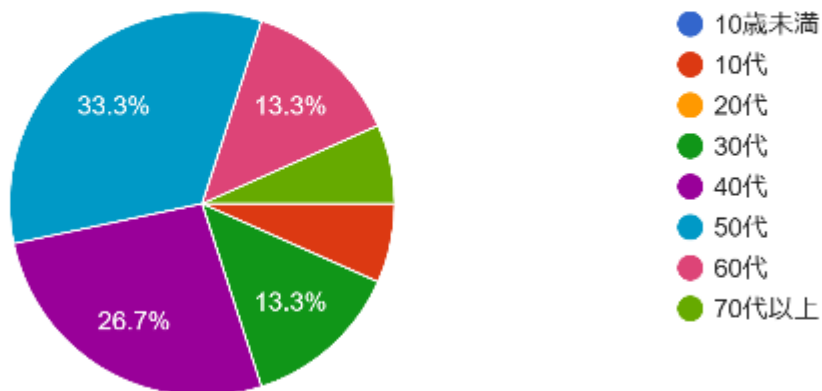


パノラマチラシ内で読者アンケートを実施しました。
回答者には抽選で10名に「セゾン・ド・宗像」をプレゼント。



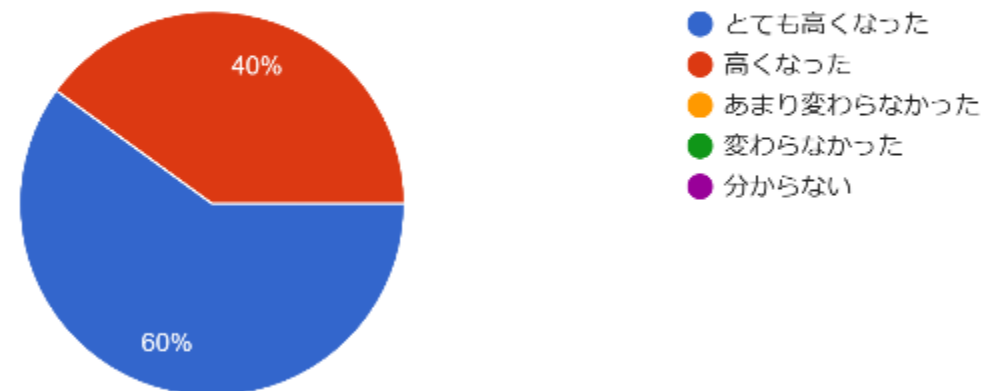
年代をご選択ください。

15件の回答



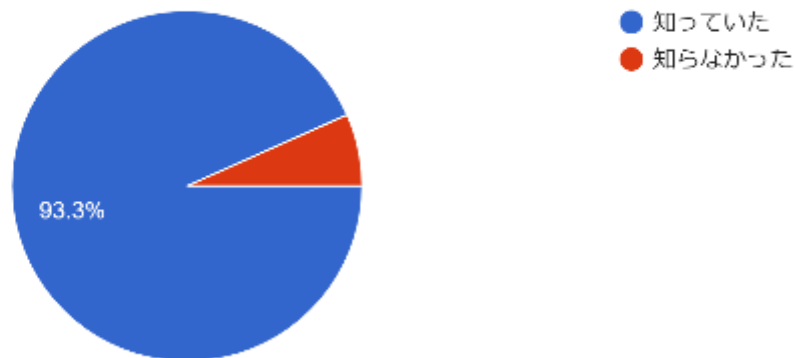
紙面を見て、海の問題への関心度は高まりましたか？

15件の回答



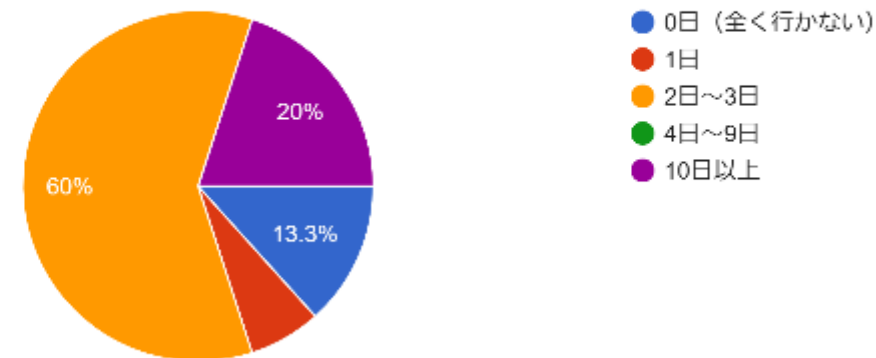
マイクロプラスチック問題を知っていましたか？

15件の回答



年間で海に行く頻度はどのくらいですか？

15件の回答



〈自由記述抜粋〉

- ❑ 小学生や中学生の取り組みを参考に、私自身も出来ることから始めて行きます。
- ❑ 中学生が生き生きと学習に取り組んでいる姿に大変嬉しく思いました。小学生の子どもも中学校になったら、こんな学習をさせてもらえたらと思いました。
- ❑ 今までは危機感を感じずに何となく、このままだったらマイクロプラスチックのゴミなどの影響で自然は大丈夫なのかと漠然と思っていました。でも、紙面で改めて800万トンものゴミが海に流出しているという数字をみると、このままではオゾン層と同じように元に戻すことが不可能になり地球上の異常気象などに、いずれは繋がっていくのではないかと危惧し、現実的な問題として捉えていかないと強くなりました。
- ❑ 地球上の出来事は全てが繋がっていて、巡り巡って自分たちの生活にも影響を及ぼすと思うので、自分に出来る小さな事でも行動していこうと思います。
- ❑ 子供達や孫、その先の未来にもキレイな海が見られるように。

成果物

パネル展示

サステナフェス2024（イオンモール福津）において、11月15日～12月1日の期間で本事業の成果を報告するパネル展示を行いました。訪れる多くの来館者に向けて本事業の意義を文章や写真、映像を通して伝えました。サステナフェスは、『SDGs未来都市』に選定されている宗像市と福津市がイオンモール福津と協力し、地域の方のSDGsへの関心を高め、持続可能な社会について考えてもらう機会を提供することを目的に22度から開催されています。

<「むなかたSDGs教室」海の体験イベントの報告>



<「むなかたSDGs探究」探究学習プログラムの報告>

